

参考資料 2 : 世論調査およびモデル市調査分析結果

2018 年 3 月 30 日

内閣府

目次

1. 防災に関する世論調査（平成 29 年）	1
2. モデル市調査	13
2.1 仙台市.....	13
2.2 四日市市.....	25
2.3 掛川市.....	39
2.4 富山市.....	53

1. 防災に関する世論調査（平成 29 年）

図 1-1、図 1-2 に「(Q3) あなたは、ここ 1～2 年ぐらいの間に、家族や身近な人と、災害が起きたらどうするかなどについて、話し合ったことがありますか。それともありませんか。」という質問に対する男女別、高齢者（本世論調査分析における高齢者とは、60 歳以上の者とする。以下の設問も同様とする。）男女別結果を示す。

図 1-1 より、「災害について家族や身近な人との話し合ったことが『ある』』と答えた人の割合は、女性の方が多くなった。また、図 1-2 より、高齢者に限定して集計した場合、全年齢で集計したときよりも、「災害について家族や身近な人との話し合ったことが『ある』』と回答した人の割合は男女共にやや低くなった。

これらの結果より、災害発生時の対応について周囲の人と積極的に認識共有を行っているという点で、女性の方が、平常時から自ら共助の体制を築いておくような動きをする傾向にあることが示唆される。一方、特に高齢男性については、平常時から共助の体制を築いておくような動きをあまり自ら積極的にとらない傾向にあるといえる。

こうした傾向をふまえると、特に高齢男性が漏れないよう配慮した上で、災害発生時の動き方について地域住民同士が認識を共有し、共助の体制を築いていけるよう促していく必要があると考えられる。

(Q3) あなたは、ここ 1～2 年ぐらいの間に、家族や身近な人と、災害が起きたらどうするかなどについて、話し合ったことがありますか。それともありませんか。

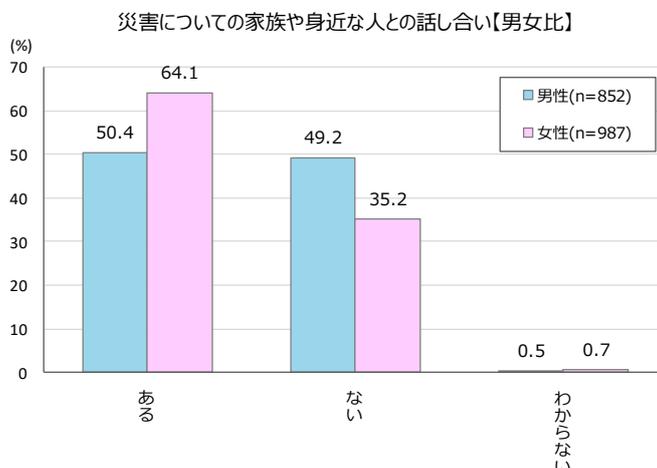


図 1-1 家族や身近な人との話し合いの有無（男女別）

出所) 以下を基に三菱総合研究所作成
内閣府、防災に関する世論調査、平成 29 年 11 月

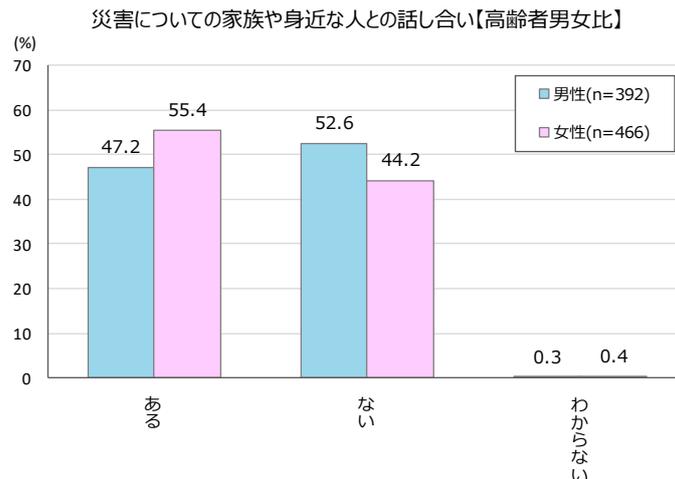


図 1-2 家族や身近な人との話し合いの有無（高齢者男女別）

出所) 以下を基に三菱総合研究所作成
内閣府、防災に関する世論調査、平成 29 年 11 月

「(Q6) あなたの家では、大地震が起こった場合に備えて、どのような対策をとっていますか。」という質問に対する男女別の回答結果を図 1-3 に示す。また、同様の質問に対する回答を、高齢者男女に限定して集計した結果を図 1-4 に示す。

図 1-3 より、「キ) 家族の安否確認の方法などを決めている」や「ク) 食料や飲料水、日用品などを準備している」といった項目を中心に、女性の方が対策を行っている割合が高くなる項目が多くなった。

一方、「ア) 消化器や水をはったバケツを準備している」や「イ) 感電ブレーカーを設置している」については、男性の方が対策を行っている人の割合がやや高くなった。また、「カ) 防災訓練に積極的に参加している」という人の割合は、男女共に同程度であった。

図 1-4 より、高齢者男女のみを対象に集計すると、全年齢の男女で集計した場合と比べて、「特に何もしていない」と回答した人の割合が女性において増加する傾向が示唆された。ただし、「ア) 消化器や水をはったバケツを準備している」や「サ) いつも風呂の水をためおきしている」については、高齢者の方が対策を行っている人の割合が高くなることがわかった。

災害に対する備えについては、「世帯として十分な備えがなされているか」という点が重要である。こうした視点に立つと、特に高齢者女性を中心として「特に何もしていない」という回答が増加していたという結果について、何らかの対策が必要となると考えられる。

2.1.3 項より、高齢者単独世帯は増加傾向にあり、特に高齢女性の単独世帯の割合が高いことも示されている。このように増加傾向にある「高齢女性の単独世帯」において、災害に対する必要な備えがなされるよう、今後は特に配慮していく必要があると考えられる。

(Q6) あなたの家では、大地震が起こった場合に備えて、どのような対策をとっていますか。この中からいくつでもあげてください。

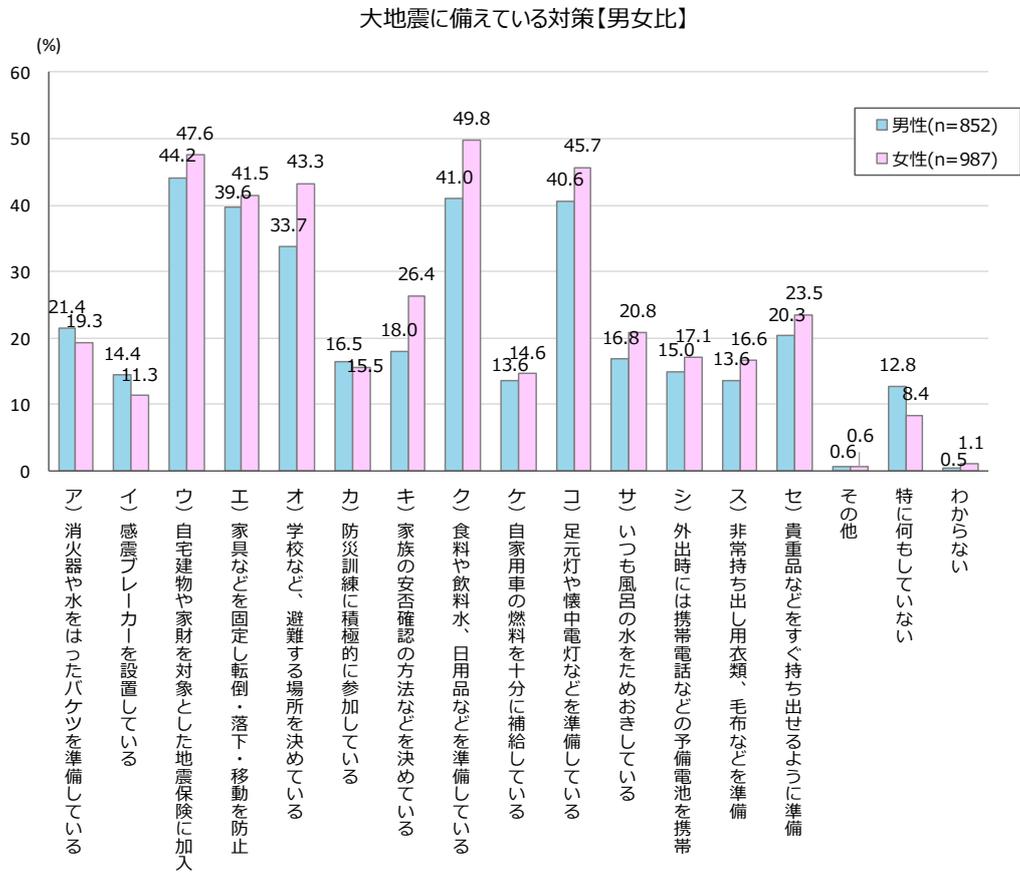


図 1-3 大地震に備えて実施している対策（男女別）

出所) 以下を基に三菱総合研究所作成
 内閣府、防災に関する世論調査、平成 29 年 11 月

大地震に備えている対策【高齢者男女比】

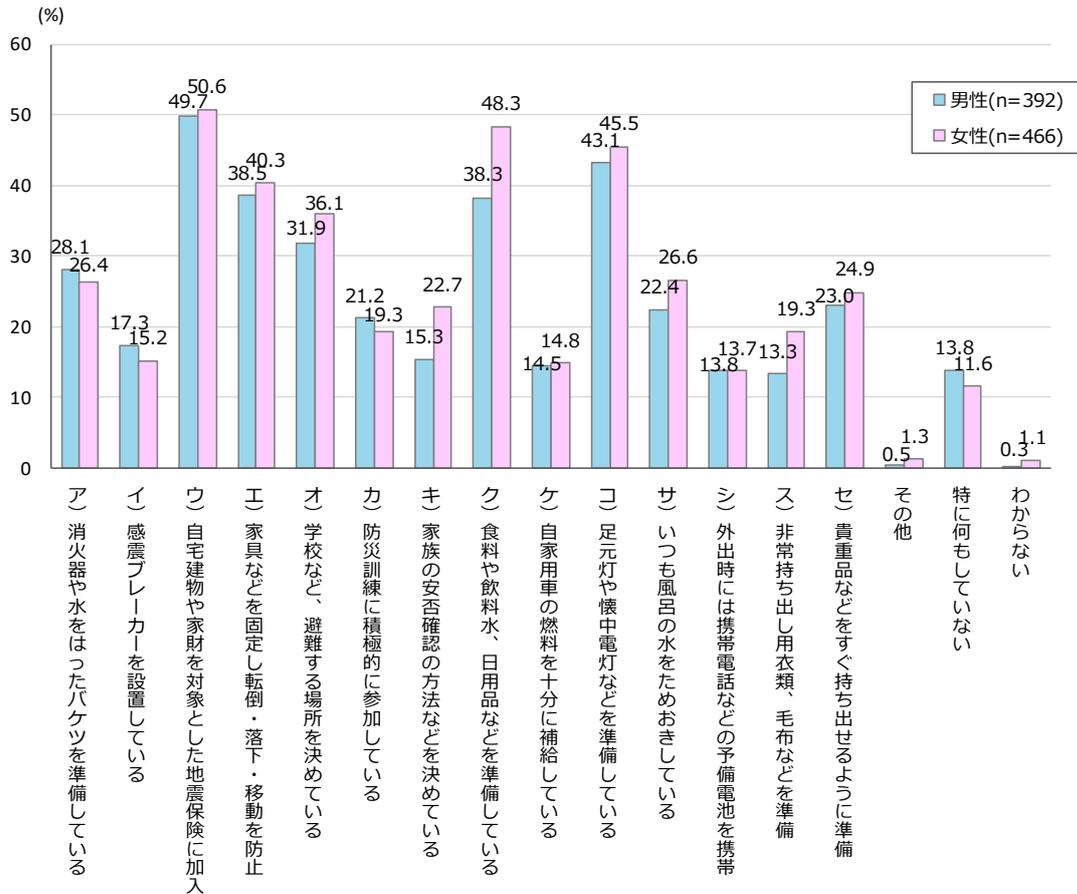


図 1-4 大地震に備えて実施している対策（高齢者男女別）

出所) 以下を基に三菱総合研究所作成
内閣府、防災に関する世論調査、平成 29 年 11 月

「(Q9) あなたが、防災全般に関する知識や情報を入手するために、今後、積極的に活用したいものはどれですか。」という質問に対する男女別の回答結果を図 1-5 に示す。また、同様の質問に対する回答を、高齢者男女に限定して集計した結果を図 1-6 に示す。

図 1-5 より、「防災に関する情報源として積極的に活用したい手段」として、女性の方が「ス) 家族・知人」を挙げた人の割合が高くなった。

高齢者男女のみを対象に集計したところ、図 1-6 より、全年齢男女で集計した場合と比べて、「ク) 防災情報のホームページ・アプリなどの情報」や「ケ) ツイッター・フェイスブックなどの情報」を挙げる人の割合が低くなる傾向にあった。また、特に高齢者女性について、これら2つの選択肢を選ぶ人の割合が低くなることが示唆された。

以上をふまえると、防災に関する情報を入手する際の手段は、性別及び年齢によって異なる可能性がある。したがって、防災に関する情報へのアクセスが性別や年齢に関わらず平等に担保されるよう、多様な手段による情報発信が重要となるといえる。

(Q9) あなたが、防災全般に関する知識や情報を入手するために、今後、積極的に活用したいものはどれですか。この中からいくつでもあげてください。

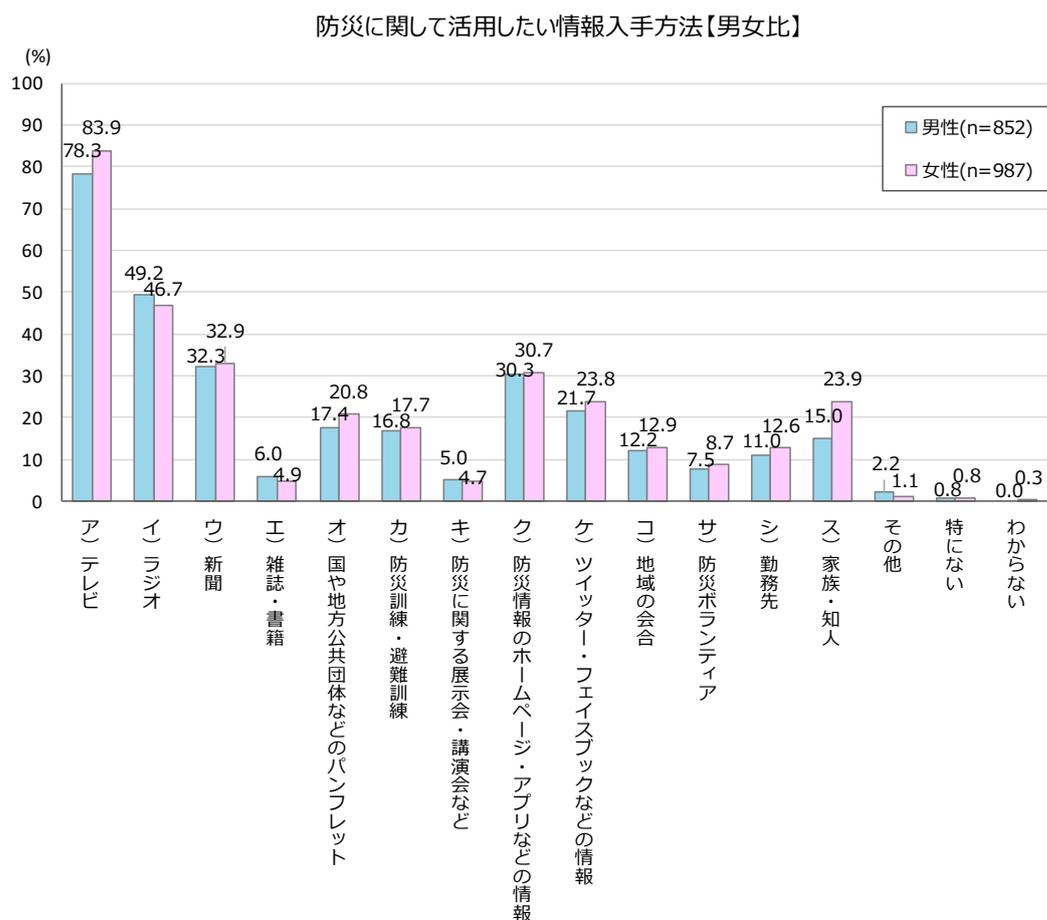


図 1-5 防災に関する情報源として積極的に活用したい手段 (男女別)

出所) 以下を基に三菱総合研究所作成
 内閣府、防災に関する世論調査、平成 29 年 11 月

防災に関して活用したい情報入手方法【高齢者男女比】

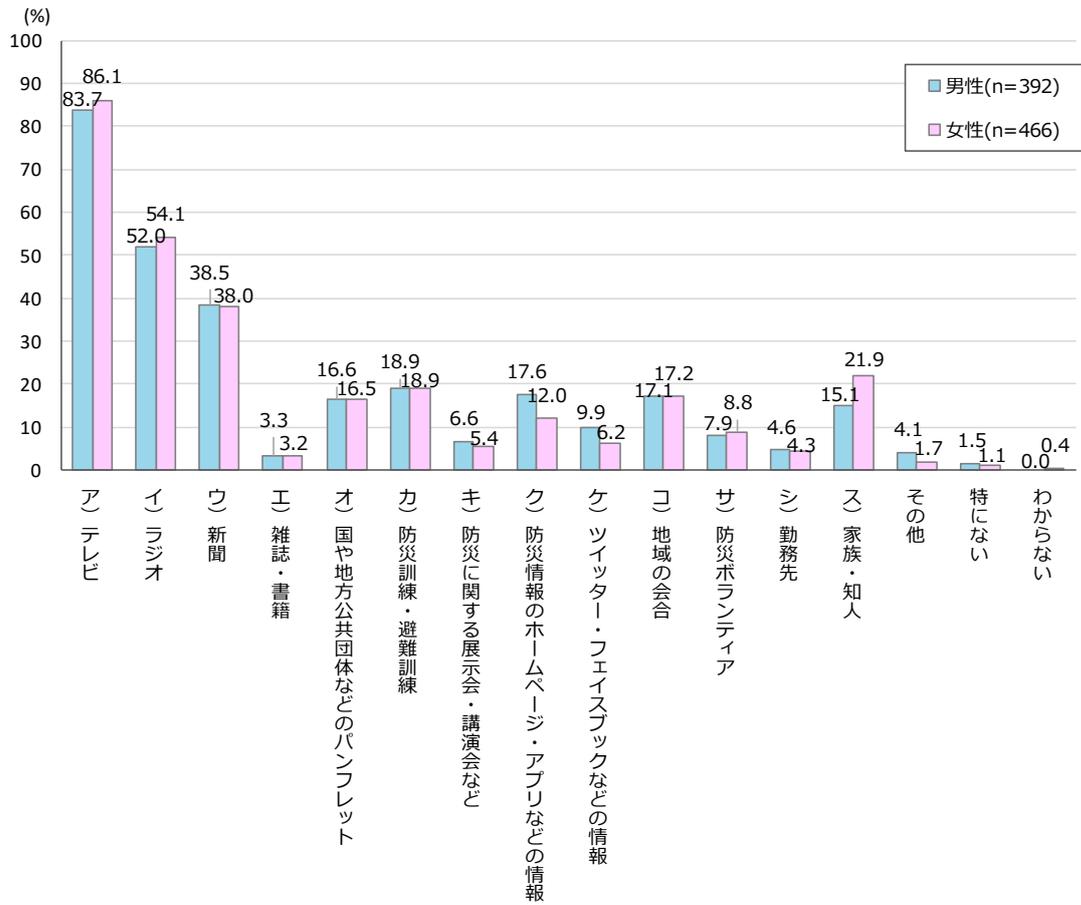


図 1-6 防災に関する情報源として積極的に活用したい手段（高齢者男女別）

出所) 以下を基に三菱総合研究所作成
 内閣府、防災に関する世論調査、平成 29 年 11 月

「(Q10) 国や地方公共団体、自治会などでは、毎年、地震や豪雨などを想定した防災訓練を行っています。あなたは、今までに防災訓練に参加したり見学したことがありますか。」という質問に対する男女別の回答結果を図 1-7 に示す。また、同様の質問に対する回答を、高齢者男女に限定して集計した結果を図 1-8 に示す。

図 1-7 より、男性の方が「エ) 訓練が行われていることを知らなかった」と回答した人の割合が高くなる傾向にあった。

高齢者男女に限定して集計を行ったところ、全年齢男女で集計した場合と比べて、「ア) 参加したことがある」と答えた人の割合はより高く、また「エ) 訓練が行われていることを知らなかった」と答えた人の割合が低くなる傾向にあった(図 1-8)。

以上をふまえると、防災訓練への参加については、比較的若い世代の男性に行き届くような手段で周知を行うよう配慮することが必要であると考えられる。その際は、前述の Q 9 の結果から示されたように、比較的若い世代の男性が積極的に活用する傾向のあるような、ホームページ・アプリといった発信手段を検討していくことも重要であるといえる。

(Q10) 国や地方公共団体、自治会などでは、毎年、地震や豪雨などを想定した防災訓練を行っています。あなたは、今までに防災訓練に参加したり見学したことがありますか。

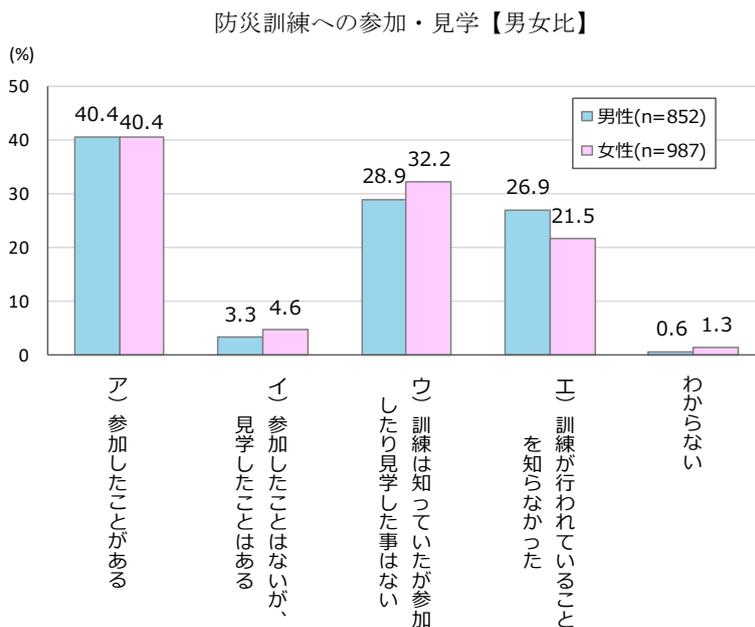


図 1-7 防災訓練への参加・見学(男女別)

出所) 以下を基に三菱総合研究所作成
内閣府、防災に関する世論調査、平成 29 年 11 月

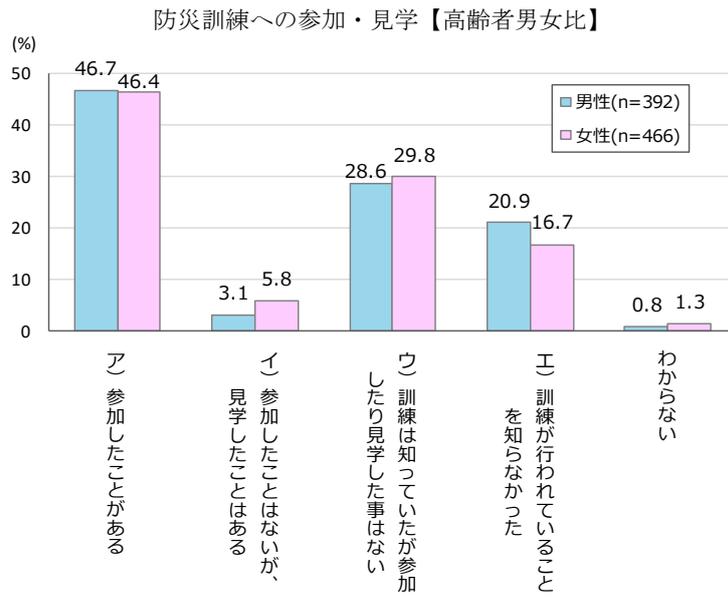


図 1-8 防災訓練への参加・見学（高齢者男女別）

出所) 以下を基に三菱総合研究所作成
 内閣府、防災に関する世論調査、平成 29 年 11 月

前掲の（Q10）に対して「ウ）訓練は知っていたが参加したり見学したことはない」と回答した人に対し、その理由を尋ねた結果を図 1-9 に示す。また、同様の質問に対する回答を、高齢者男女に限定して集計した結果を図 1-10 に示す。

図 1-9 より、女性は男性と比べて「イ）会場に行くのが大変だったから」と回答した人の割合が高くなる傾向にあった。また、図 1-10 より、この傾向は特に高齢者女性に顕著であり、高齢者女性の回答者のうち約 3 割がこの選択肢を選んでいただことが示された。

一方、防災訓練への参加・見学経験がない理由として、「ウ）関心・興味がなかったから」と回答した人の割合は高齢者女性で最も低くなっていた（図 1-10）。これにより、高齢者女性の防災訓練に対する関心は比較的高いということが推測される。

以上をふまえると、より多くの地域住民に防災訓練に参加してもらうためには、高齢女性も参加しやすくなるよう、開催場所や開催のタイミングに配慮することが重要であると考えられる。

（Q10_S Q b）「訓練が行われていることは知っていたが、参加したり見学したことはない」のはなぜですか。

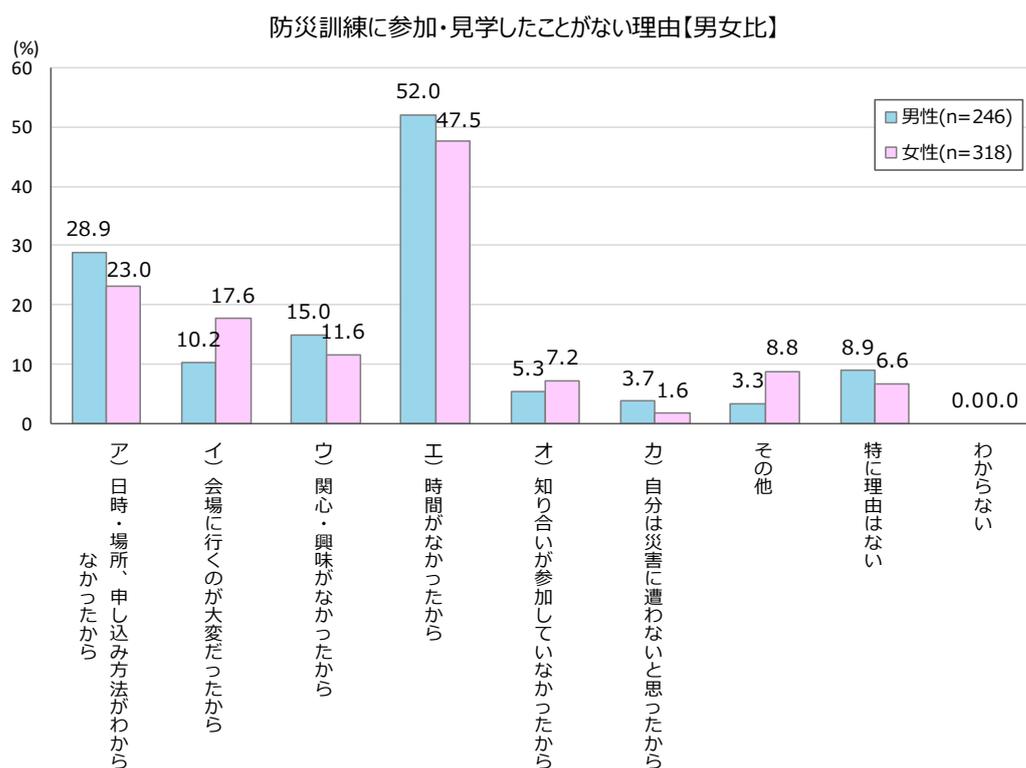


図 1-9 防災訓練への参加・見学経験がない理由（男女別）

出所）以下を基に三菱総合研究所作成
内閣府、防災に関する世論調査、平成 29 年 11 月

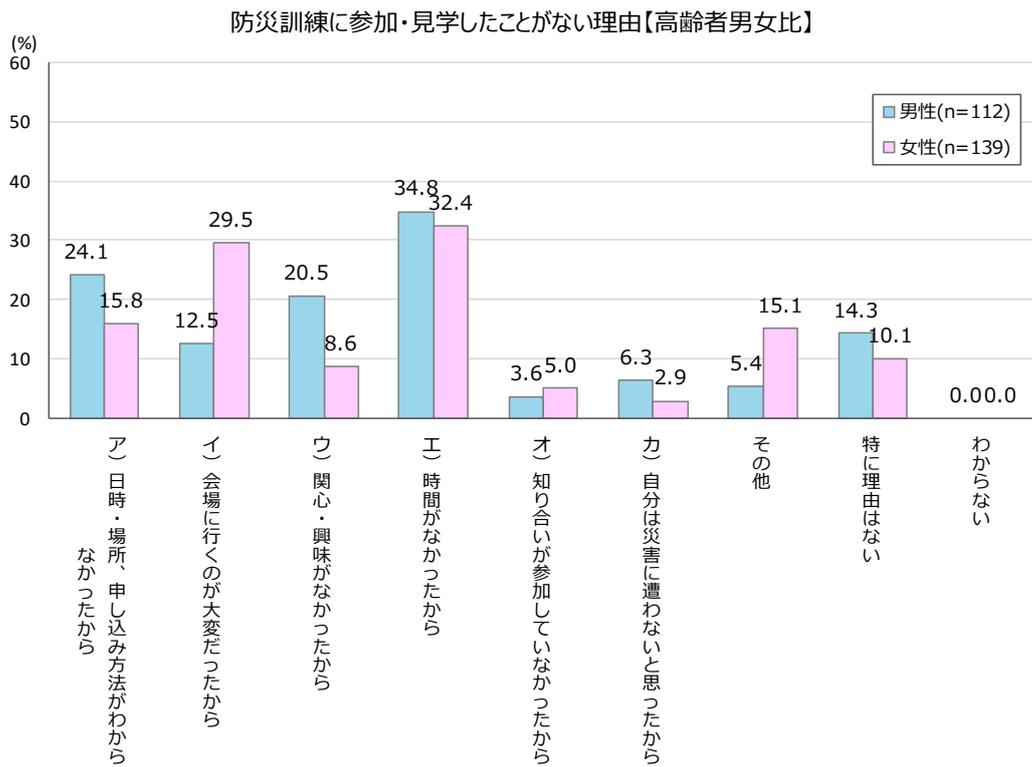


図 1-10 防災訓練への参加・見学経験がない理由（高齢者男女別）

出所) 以下を基に三菱総合研究所作成
 内閣府、防災に関する世論調査、平成 29 年 11 月

「(Q11) 災害が起こったとき取るべき対応として、あなたの考えに最も近いものはどれですか。」という質問に対する男女別の回答結果を図 1-11 に示す。また、同様の質問に対する回答を、高齢者男女に限定して集計した結果を図 1-12 に示す。

図 1-11 より、「ア) 『自助』に重点をおくべき」と回答した人の割合は男性の方がやや高く、「エ) 自助共助公助のバランスをとるべき」と回答した人の割合は女性の方がやや高いことが示されている。

図 1-12 より、高齢者男女に限定した集計においては、全体の集計と比べて「ア) 『自助』に重点をおくべき」が男女共に約 10%高くなっていた。また、「イ) 『共助』に重点をおくべき」と回答した人の割合が、特に高齢者女性に多くなっていた。

男女共に自助を最重要視する傾向が強いが、特に高齢女性については共助を重要視する人も比較的多いことを考慮した上で、地域における防災の取組の枠組みを検討していく必要があるといえる。

(Q11) 災害が起こったとき取るべき対応として、あなたの考えに最も近いものはどれですか。

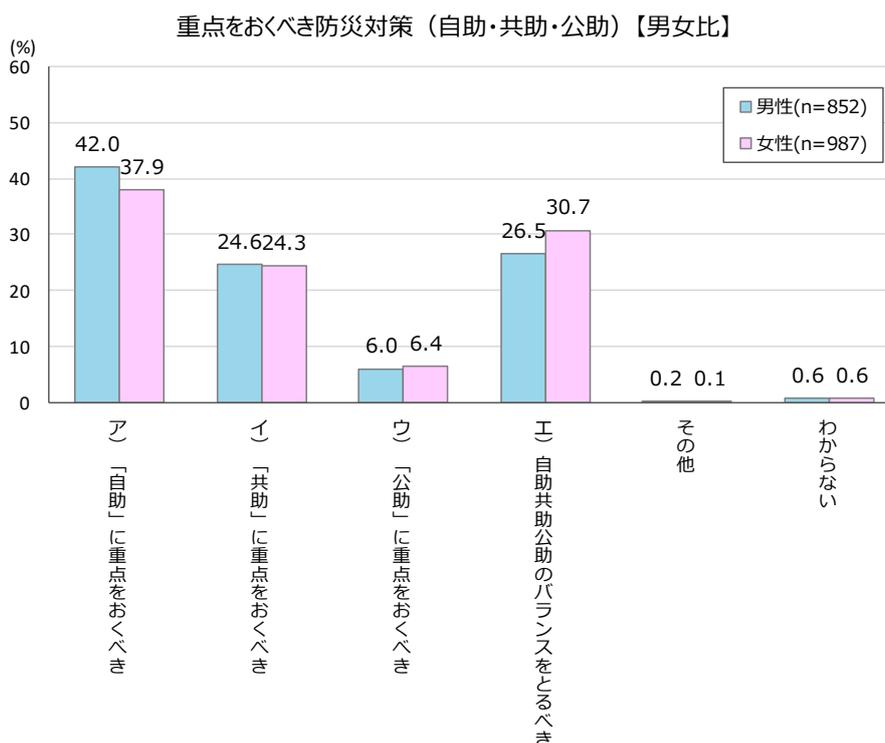


図 1-11 自助・共助・公助のうち自らの考えにもっとも近いもの（男女別）

出所) 以下を基に三菱総合研究所作成
内閣府、防災に関する世論調査、平成 29 年 11 月

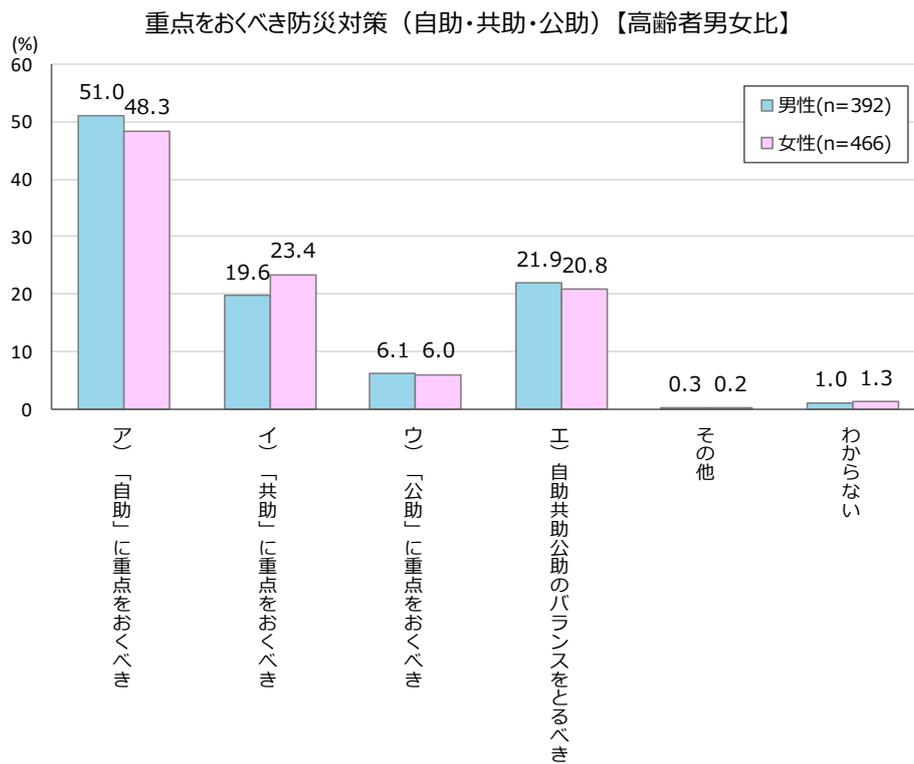


図 1-12 自助・共助・公助のうち自らの考えにもっとも近いもの（男女別）

出所) 以下を基に三菱総合研究所作成
内閣府、防災に関する世論調査、平成 29 年 11 月

2. モデル市調査

2.1 仙台市

■東日本大震災での避難

仙台市における調査結果によれば、東日本大震災において、女性の方が、実際に避難をしたと回答した割合が高い。高齢者についても同様の傾向があるが、特に介護者を抱える世帯で避難が行われていないことがわかる（図 2-1、図 2-2 参照）。

問：東日本大震災であなたはどこかに避難しましたか。あてはまるものをすべてお選びください。

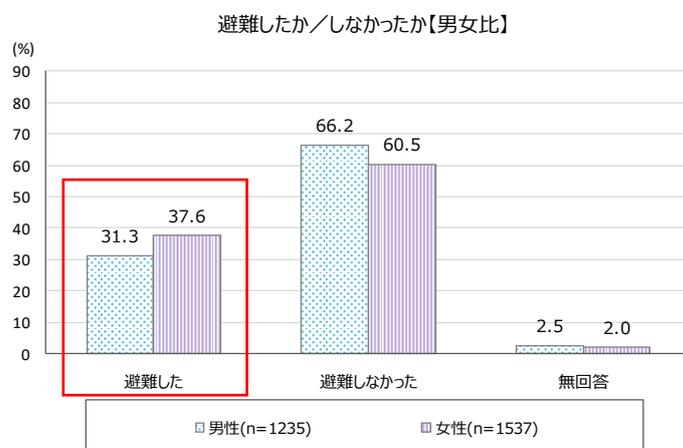


図 2-1 東日本大震災時にどこかに避難したか（仙台市）

出所) 以下を基に三菱総合研究所作成

仙台市、防災に関する市民意識アンケート調査、平成 26 年 8 月

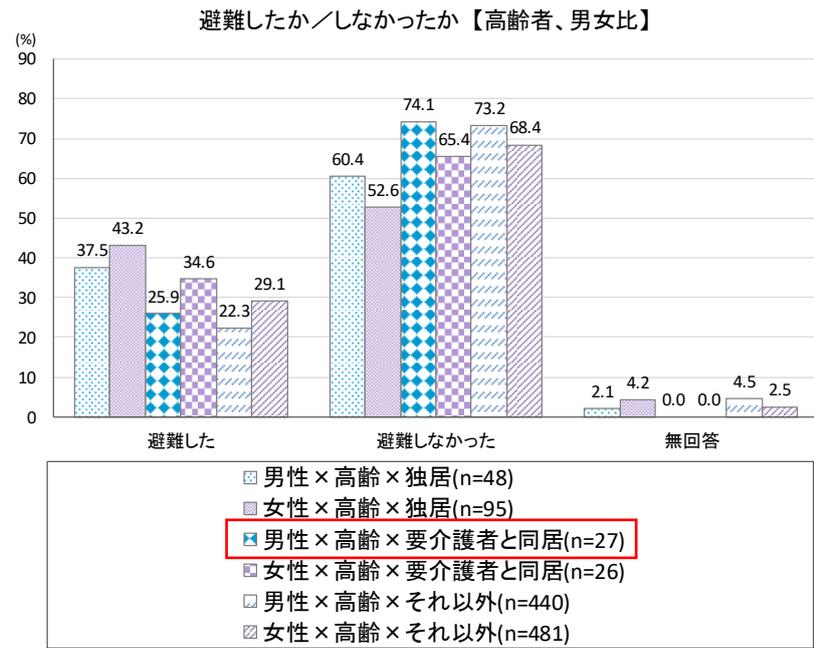
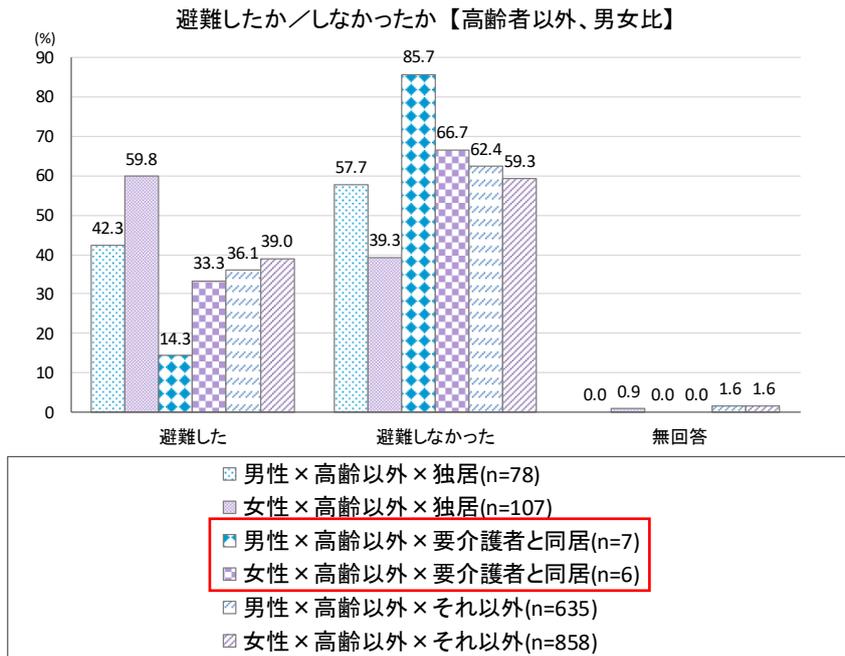


図 2-2 東日本大震災時にどこかに避難したか
 (高齢者(同居家族の状態別)) / (高齢者(同居家族の状態別)) (仙台市)

出所) 以下を基に三菱総合研究所作成
 仙台市、防災に関する市民意識アンケート調査、平成 26 年 8 月

■災害に対する準備

防災対策の実施状況は、全体については男女差が見られないが、高齢者に限定すると、特に防災訓練やニュース等の情報のチェックに関する備えについては、より男性の割合が多くなる（図 2-3、図 2-4 参照）。

問：災害に備えた準備について、あなたの家庭で何らかの準備をしているか、「C. 準備ができていない」の場合はその理由についてお答えください。

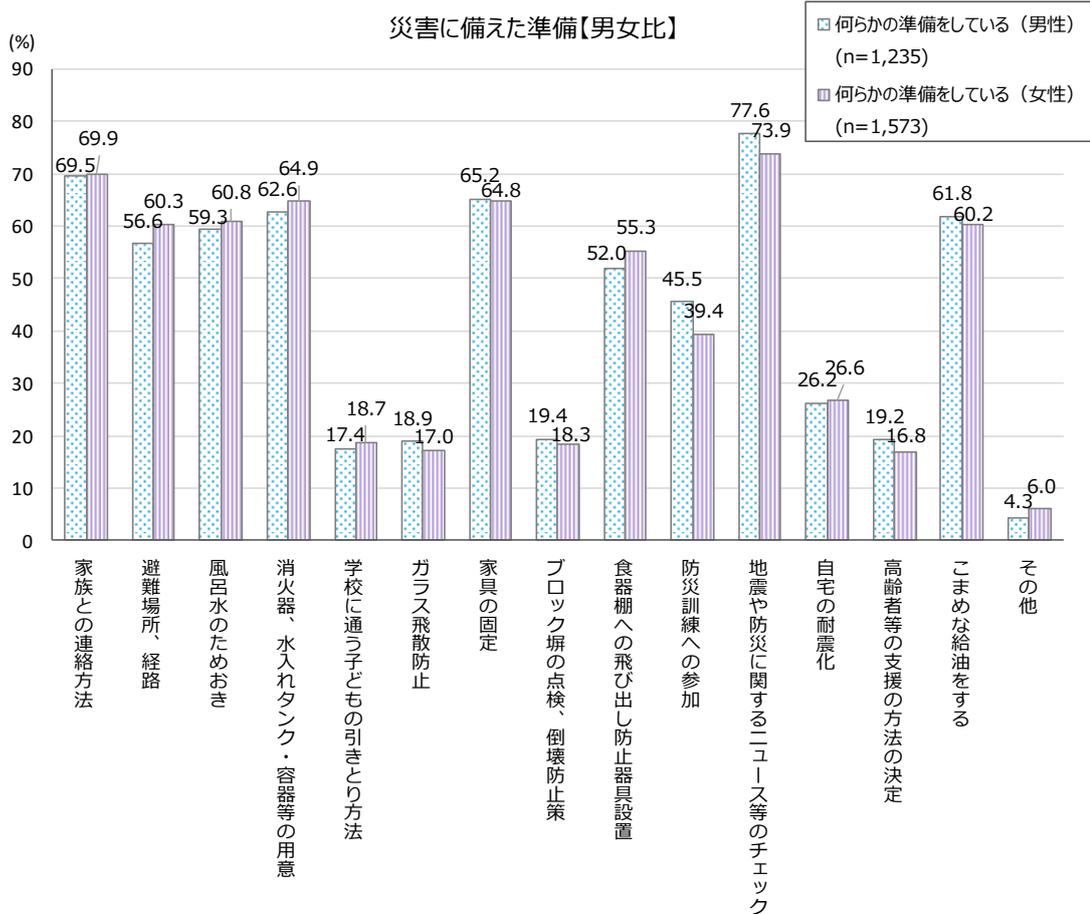


図 2-3 災害に備えた準備状況（仙台市）

出所) 以下を基に三菱総合研究所作成
 仙台市、防災に関する市民意識アンケート調査、平成 26 年 8 月

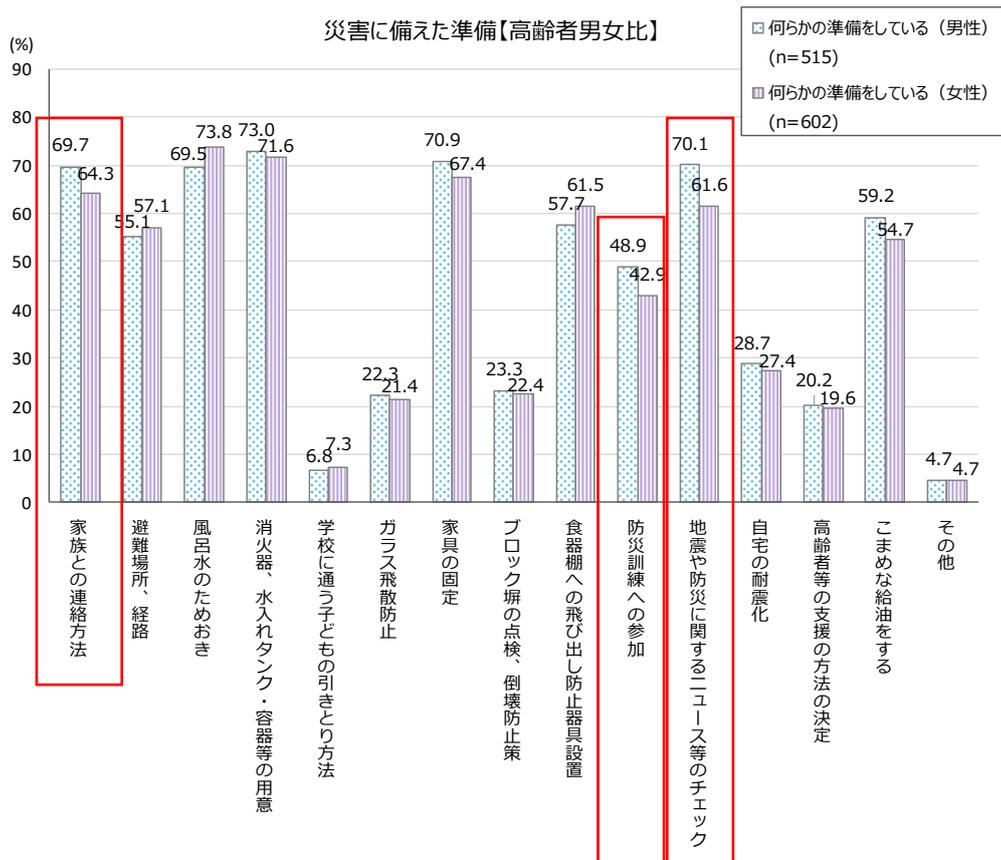


図 2-4 災害に備えた準備状況（高齢者）（仙台市）

出所) 以下を基に三菱総合研究所作成
 仙台市、防災に関する市民意識アンケート調査、平成 26 年 8 月

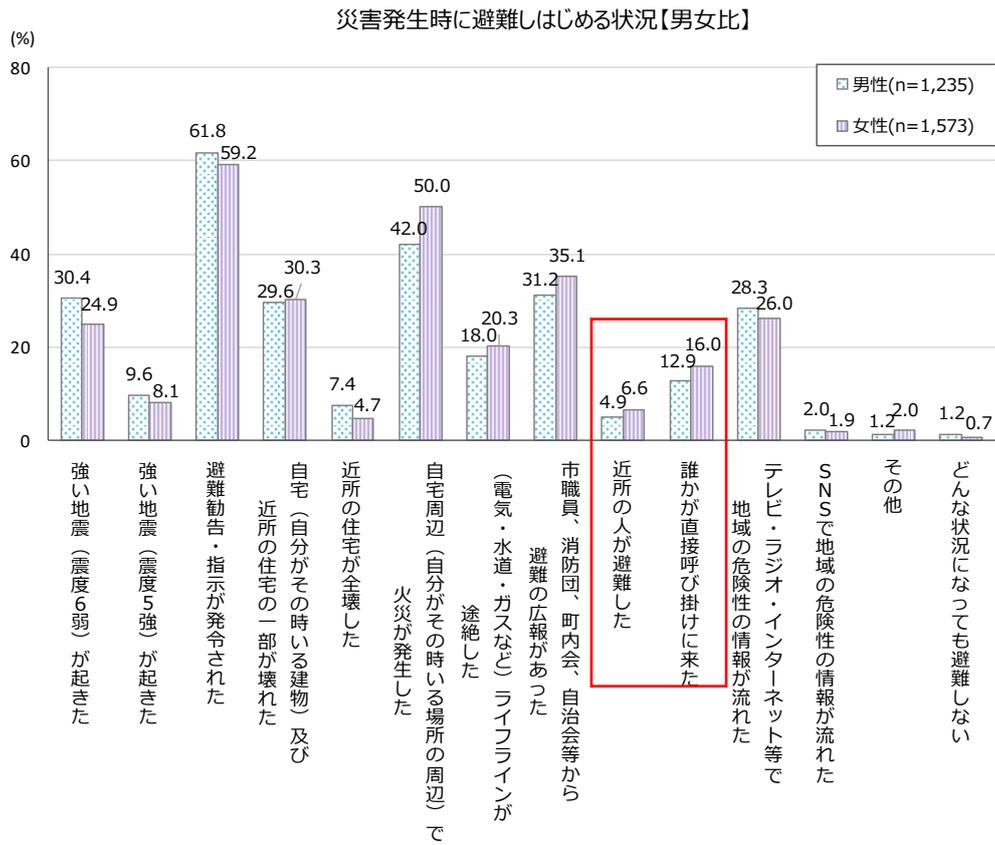


図 2-5 災害時に避難しはじめる状況【男女比】（仙台市）

出所) 以下を基に三菱総合研究所作成

仙台市、防災に関する市民意識アンケート調査、平成26年8月

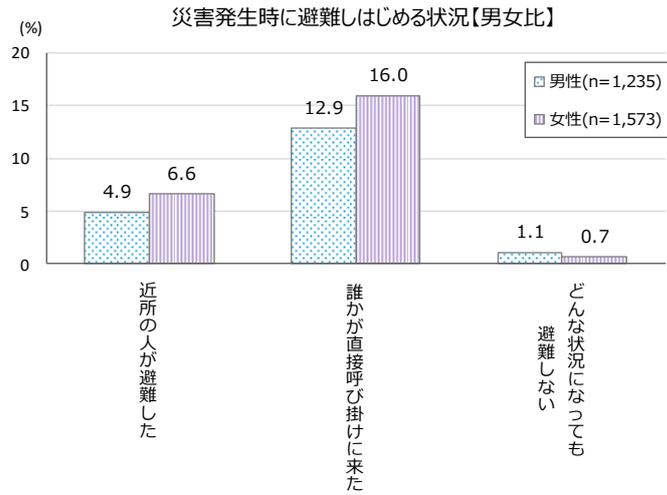


図 2-6 災害時に避難しはじめる状況 地域コミュニティ特化【男女比】（仙台市）

出所) 以下を基に三菱総合研究所作成
 仙台市、防災に関する市民意識アンケート調査、平成 26 年 8 月

問：外出先の場合、こういった情報をもとに避難経路、避難先を判断すると考えますか。
 あてはまるものをすべてお選びください。

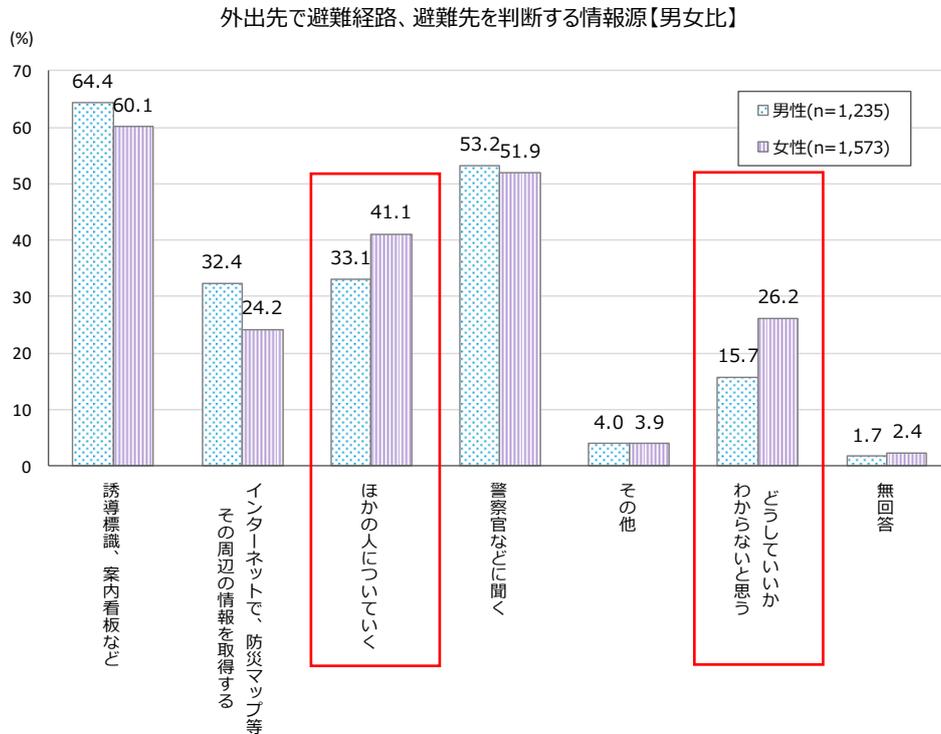


図 2-7 災害発生時に避難しはじめる状況【男女比】（仙台市）

出所) 以下を基に三菱総合研究所作成
 仙台市、防災に関する市民意識アンケート調査、平成 26 年 8 月

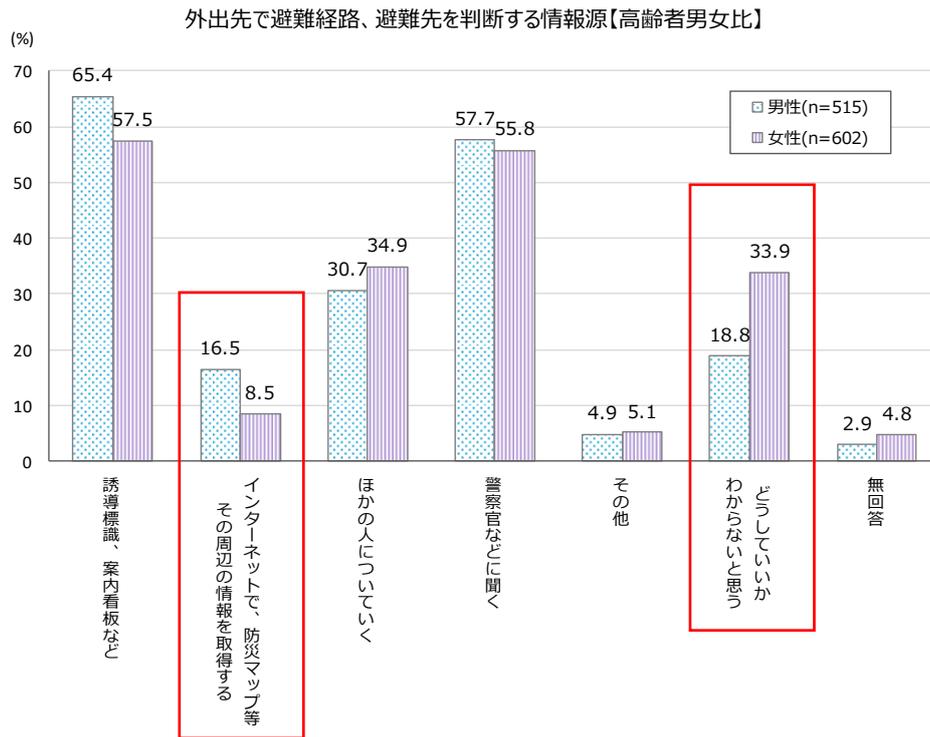


図 2-8 災害発生時に避難しはじめる状況【男女比】（仙台市）

出所) 以下を基に三菱総合研究所作成
 仙台市、防災に関する市民意識アンケート調査、平成 26 年 8 月

■防災施策

仙台市が実施している防災に関する施策のうち、緊急速報メールの認知については、男性よりも女性の方が高くなる傾向にあった。一方、「せんだいくらしのマップ」「仙台市浸水想定区域図」「仙台市洪水災害予測地図」といった地図情報や「仙台市避難所運営マニュアル」については、全体的に認知度は低いものの、男女で比較をした場合は男性の認知度の方が比較的高くなる傾向が示された（図 2-9 参照）。

高齢者に限定すると、「仙台市洪水災害予測地図」「緊急速報メール」については男女共に認知度が減少する傾向にあった。一方、無回答を選んだ回答者の割合は、男女共に増加していた。なお、男女間の差に関しては、全体とほぼ同じ傾向にあった（図 2-10 参照）。

問：仙台市で実施している以下の施策を知っていますか。知っているものをすべてお選びください。

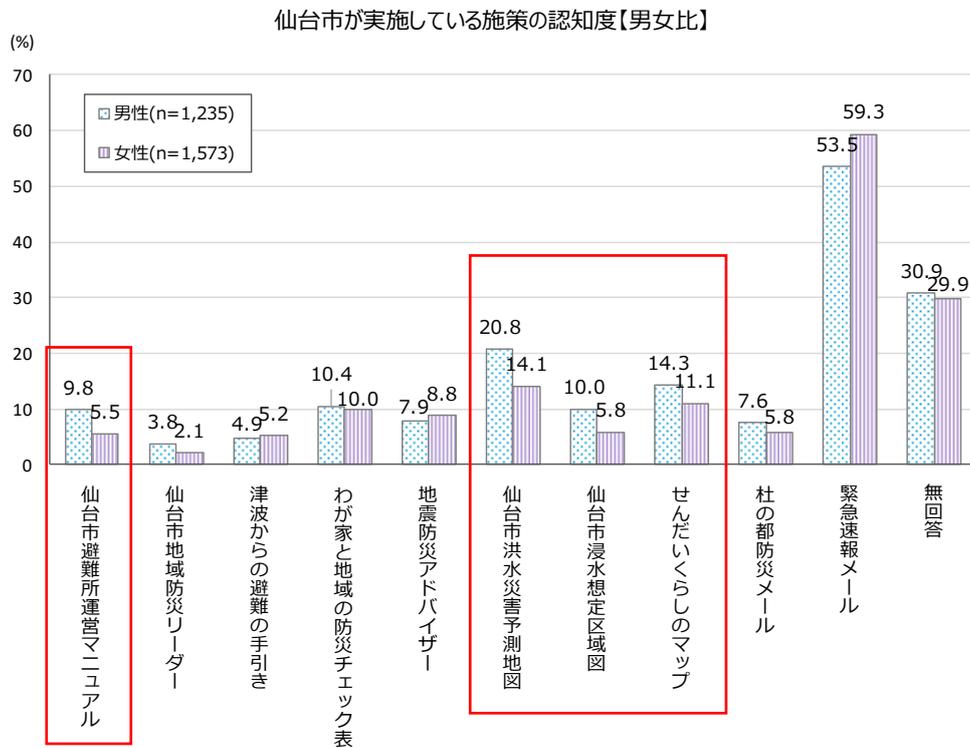


図 2-9 仙台市が実施している防災施策の認知度【男女比】（仙台市）

出所) 以下を基に三菱総合研究所作成
 仙台市、防災に関する市民意識アンケート調査、平成 26 年 8 月

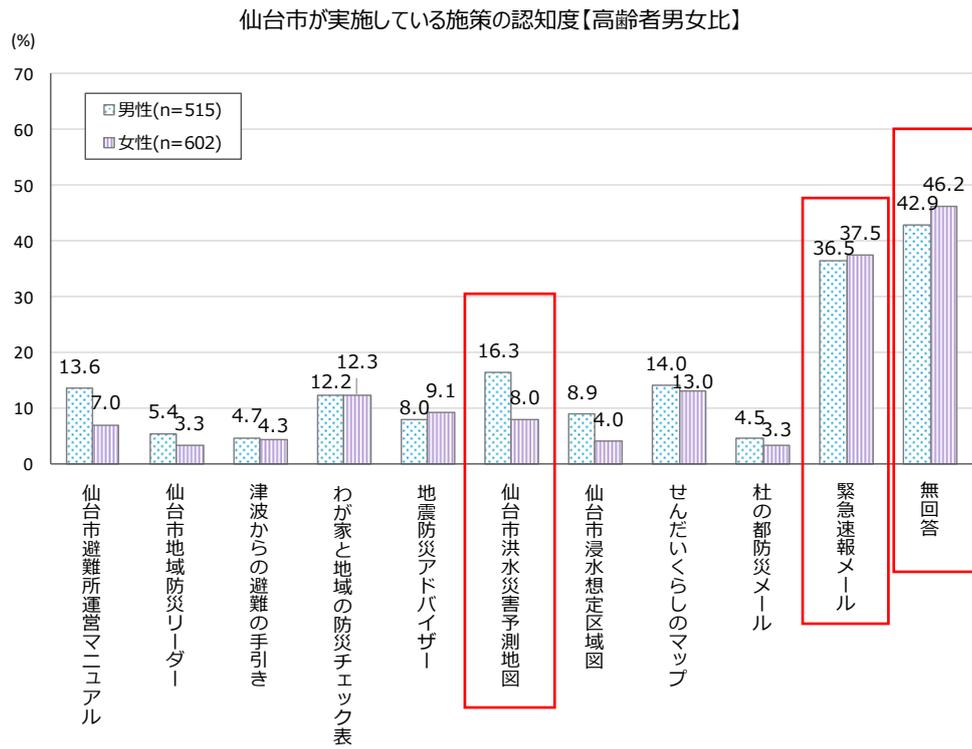


図 2-10 仙台市が実施している防災施策の認知度【高齢者男女比】（仙台市）

出所) 以下を基に三菱総合研究所作成
 仙台市、防災に関する市民意識アンケート調査、平成 26 年 8 月

■自主防災組織

防災活動について「どれも参加・体験したことがない」と回答した人に対し、参加しなかった理由を尋ねたところ、「参加する意思はあったが、都合により参加できなかった」を選んだ男性が特に多くなる傾向にあった（図 2-11 参照）。また、「めんどうだから」を選んだ回答者は、比較的男性に多かった（図 2-11 参照）。

高齢者に限定すると、全体的な傾向に変化はほぼなかったものの、高齢者女性のうち「参加する意思はあったが、都合により参加できなかった」を選んだ回答者の割合は減少していた。一方、「めんどうだから」や「防災訓練は実際には役に立たない」を選んだ回答者の割合がやや増加していた（図 2-12 参照）。

問：防災活動へ参加しなかった理由はどうしてですか。（問 29-1 で震災後「6. どれも参加・体験したことがない」を選択した方）

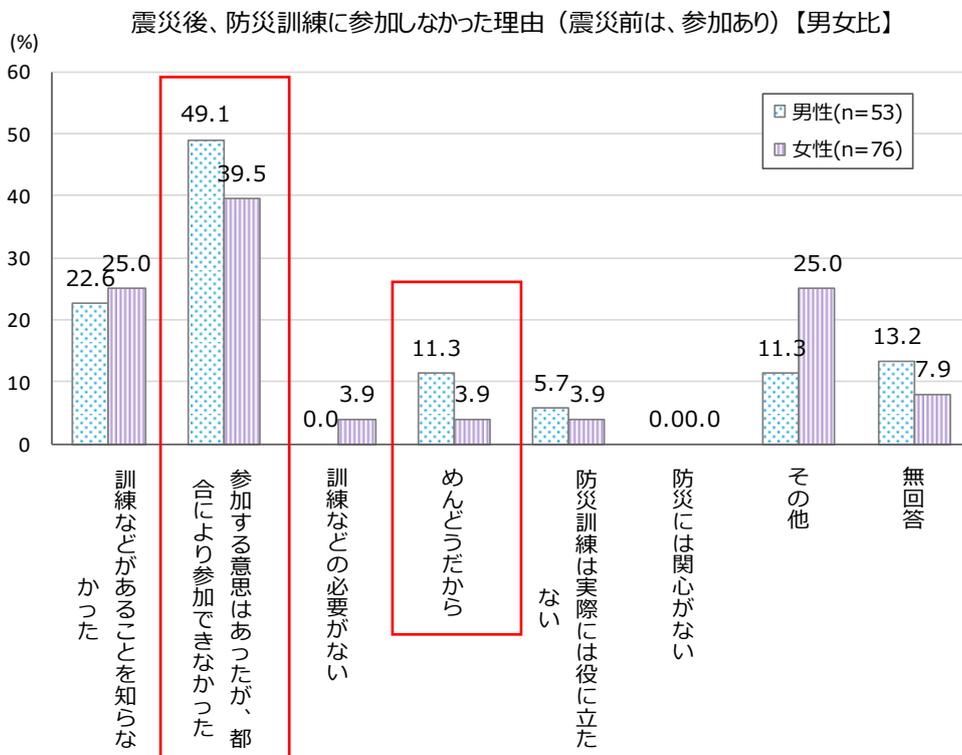


図 2-11 震災後防災訓練に参加しなかった理由【男女比】（仙台市）

出所) 以下を基に三菱総合研究所作成

仙台市、防災に関する市民意識アンケート調査、平成 26 年 8 月

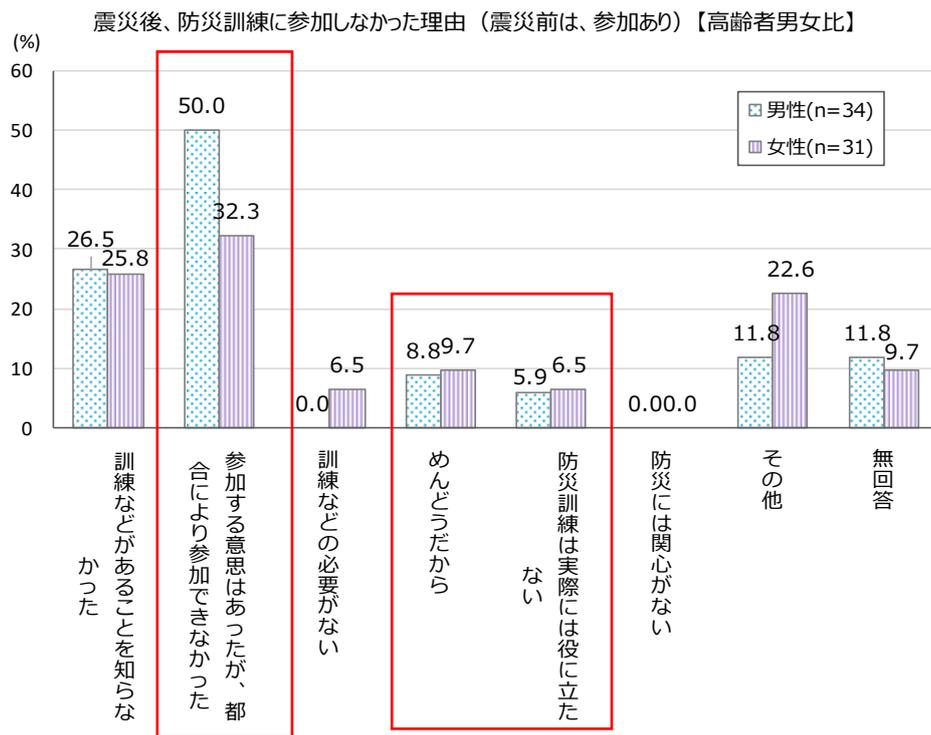


図 2-12 震災後防災訓練に参加しなかった理由【高齢者男女比】（仙台市）

出所) 以下を基に三菱総合研究所作成

仙台市、防災に関する市民意識アンケート調査、平成 26 年 8 月

2.2 四日市市

災害時に回答者自身の支援を必要とする周囲の人について尋ねたところ、回答者全体では「近所や地域内でひとりで避難することが難しそうの人」「家族で支援が必要な人」「近所や地域に住む人で、普段から知り合いの人」の順に多くなっていた（図 2-13 参照）。

男女別に集計すると、「家族で支援が必要な人」「近所や地域内でひとりで避難することが難しそうの人」「近所や地域に住む人で、普段から知り合いの人」について、女性よりも男性の方が回答者の割合が高くなっていた（図 2-14 参照）。

設問 1 あなたは、災害時に避難する場合や避難所で過ごす場合、誰を助けたり、支援したりする必要がありますか。あてはまるもの全てご回答ください。（複数回答）

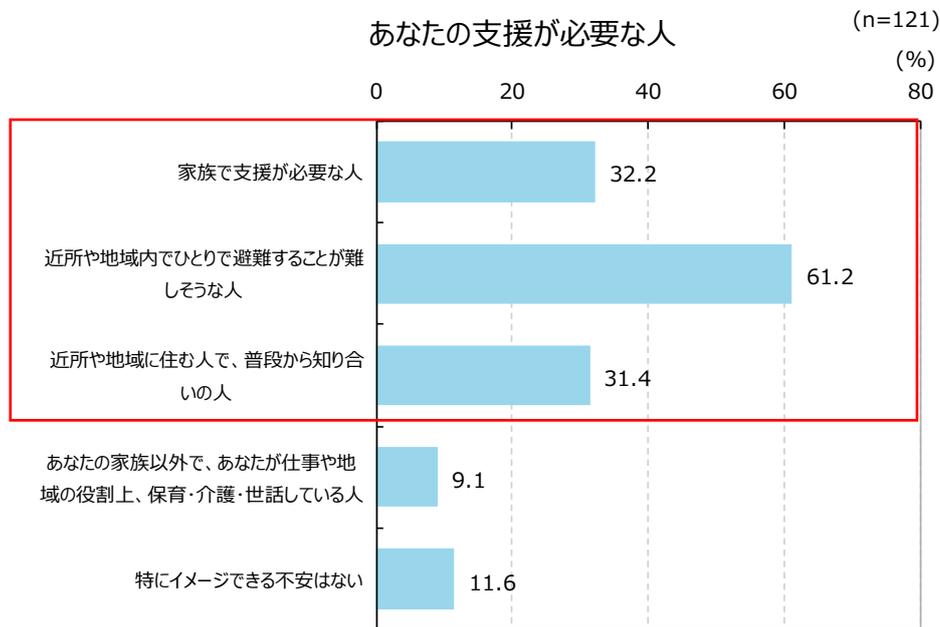


図 2-13 災害時に「あなたが」支援する必要がある人（四日市市）

出所) 三菱総合研究所、平成 29 年度調査

➤ 設問 1×男女・年齢別

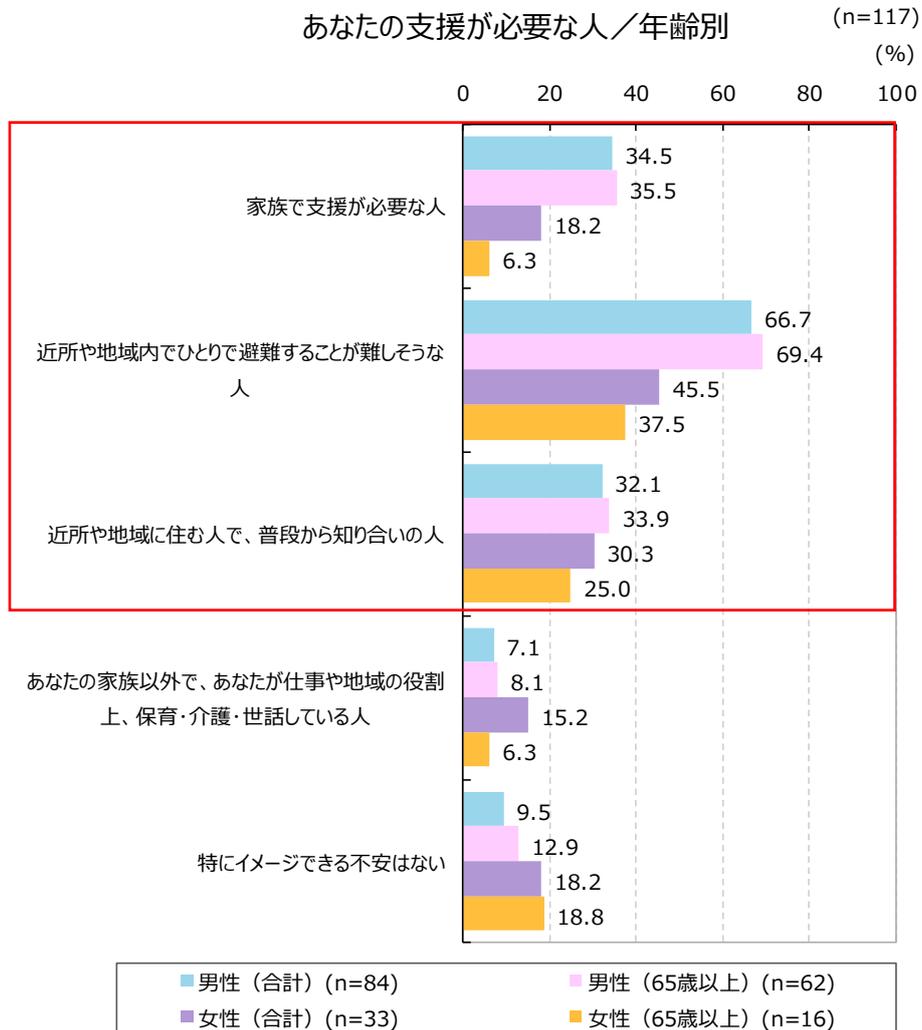


図 2-14 災害時に「あなたが」支援する必要がある人（男女/年齢別）（四日市市）

出所) 三菱総合研究所、平成 29 年度調査

家族内で、回答者自身の支援を必要とする人は、回答者全体では「行動が不自由な高齢者」「その他」「認知症」の順に多くなっていた（図 2-15 参照）。

男女別に集計すると、男女共に半数以上が「行動が不自由な高齢者」を挙げていた（図 2-16）。また、「行動が不自由な高齢者」以外の選択肢については、いずれも女性の割合が高かった。特に「乳幼児」「妊婦」を選んだ男性の割合は 0%であり、女性の割合と差が生じていた（図 2-16 参照）。

※なお、本分析は特に女性回答者数の n 値が小さいことに注意が必要。

※特に、男女/就業状況別のデータについては、「女性（無職）」の n 値が 1 であり、正確な比較分析が困難であるため、省略する。

➤ 設問 1-①「① あなたの家族で、あなたの支援が必要な人」の内訳

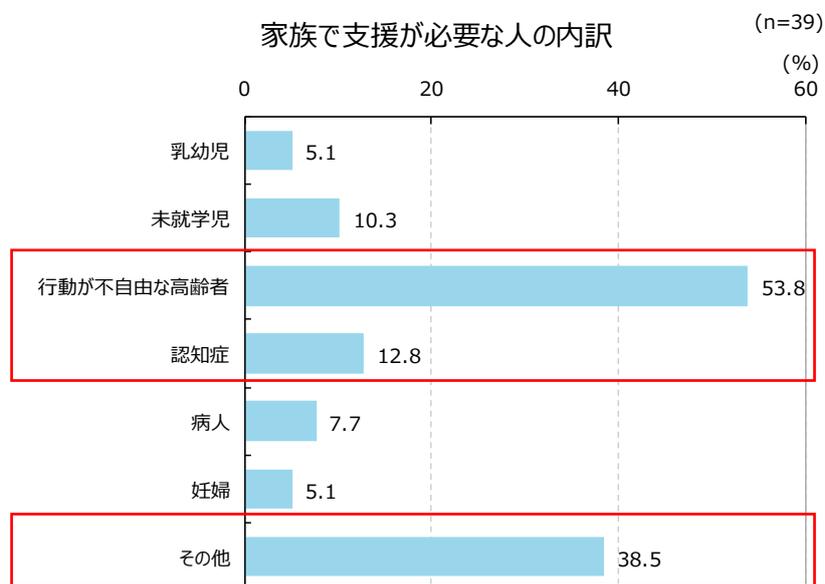


図 2-15 災害時に「家族で」支援する必要がある人の内訳
(全体) (四日市市)

出所) 三菱総合研究所、平成 29 年度調査

➤ 設問 1-①×男女・年齢別

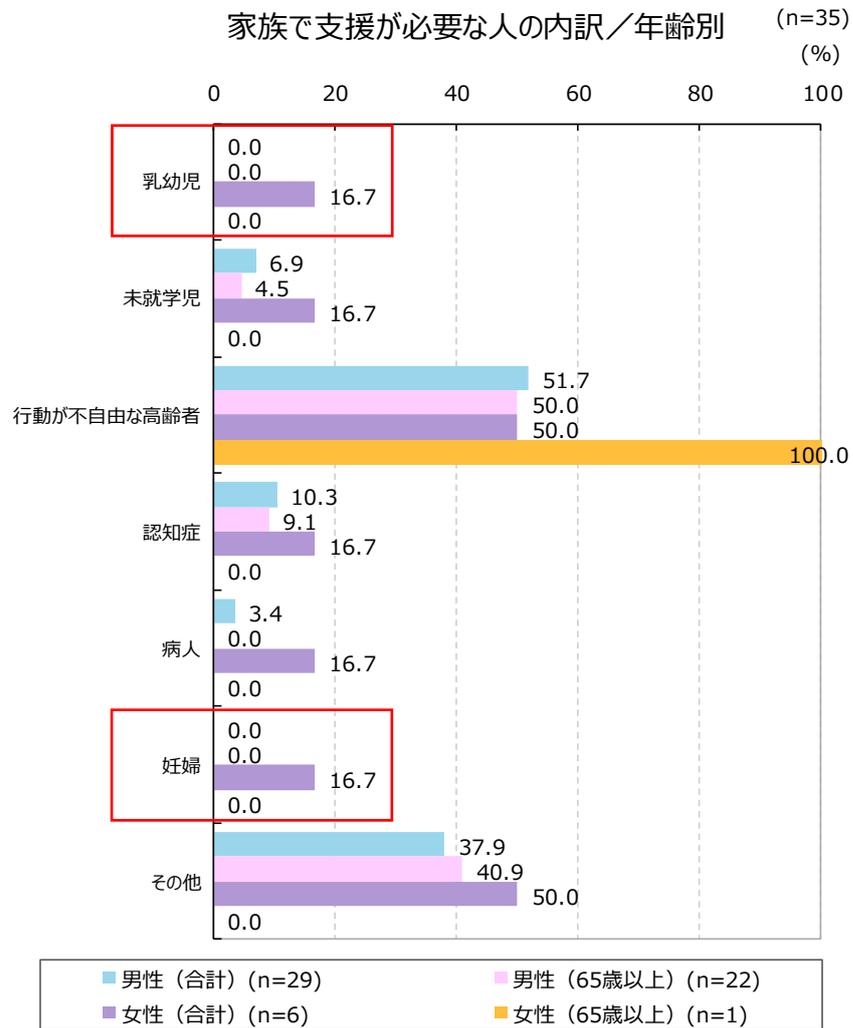


図 2-16 災害時に「家族で」支援する必要がある人の内訳
(男女/年齢別) (四日市市)

出所) 三菱総合研究所、平成 29 年度調査

➤ 設問 1-①×男女・就業状況別

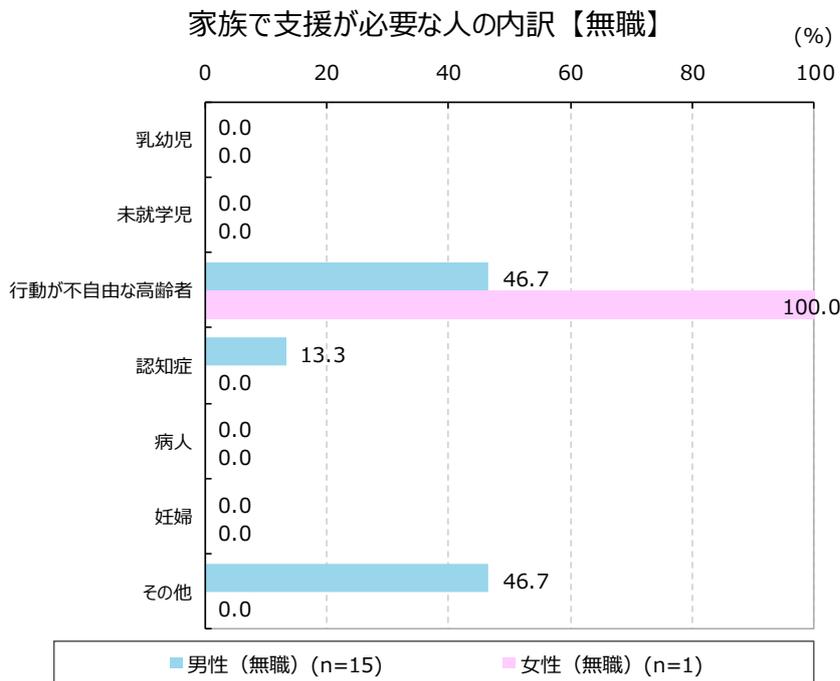
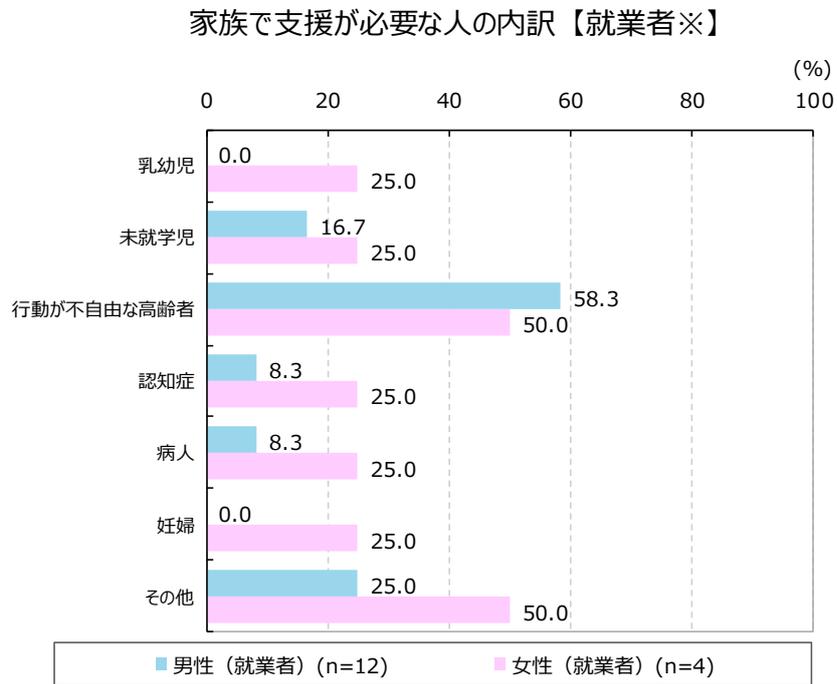


図 2-17 災害時に「家族で」支援する必要がある人の内訳
 (男女/就業状況別) (四日市市)
 ※会社員・公務員、自営業・フリーランス、パート・アルバイトの合計

出所) 三菱総合研究所、平成 29 年度調査

回答者自身の支援を必要とする近所や地域の人について尋ねたところ、全体の 78%の回答者が「行動が不自由な高齢者」を挙げていた（図 2-18 参照）。

男女別に集計したところ、「認知症」を選んだ回答者の割合は女性よりも男性において高くなる傾向にあった（図 2-17 参照）。

また、性別・職業別に集計したところ、就業者（会社員・公務員、自営業・フリーランス、パート・アルバイトの合計）においては、「認知症」以外の全ての選択肢について、男性よりも女性の方が回答者の割合が高くなっていった（図 2-20 参照）。一方、無職の男女を比較した場合、女性回答者のうち「行動が不自由な高齢者」以外の選択肢を回答した人の割合は全て 0%となっていた（図 2-20 参照）。

※なお、本分析は特に女性回答者数 n 値が小さいことに注意が必要。

➤ 設問 1-②「② 近所や地域に住む、ひとりで避難することが難しそうな人」の内訳

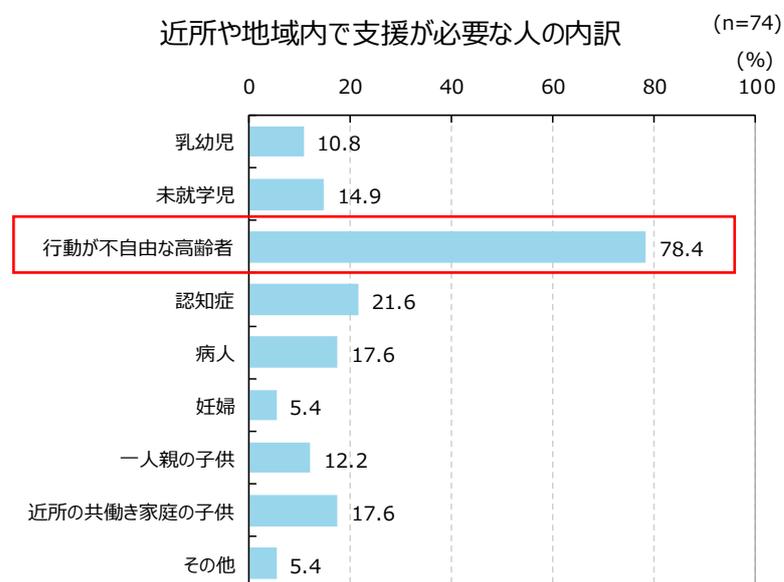


図 2-18 災害時に「近所や地域内で」支援する必要がある人の内訳
(全体) (四日市市)

出所) 三菱総合研究所、平成 29 年度調査

➤ 設問 1-②×男女・年齢別

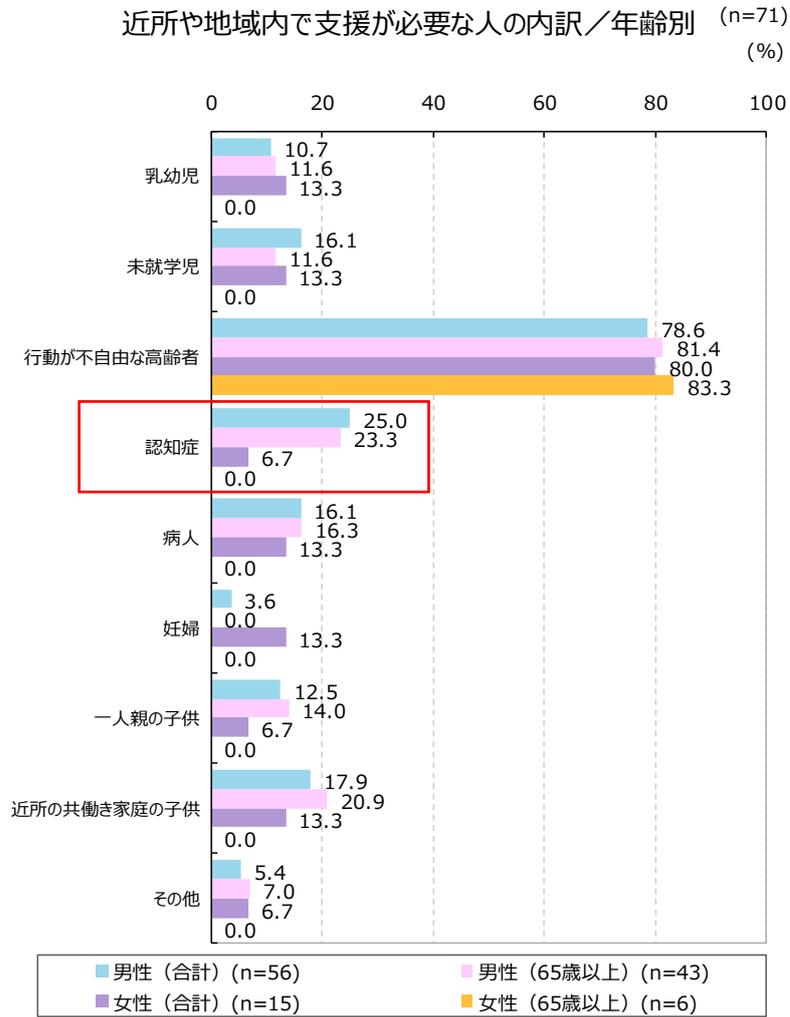


図 2-19 災害時に「近所や地域内で」支援する必要がある人の内訳
(男女/年齢別) (四日市市)

出所) 三菱総合研究所、平成 29 年度調査

➤ 設問 1-②×男女・職業状況別

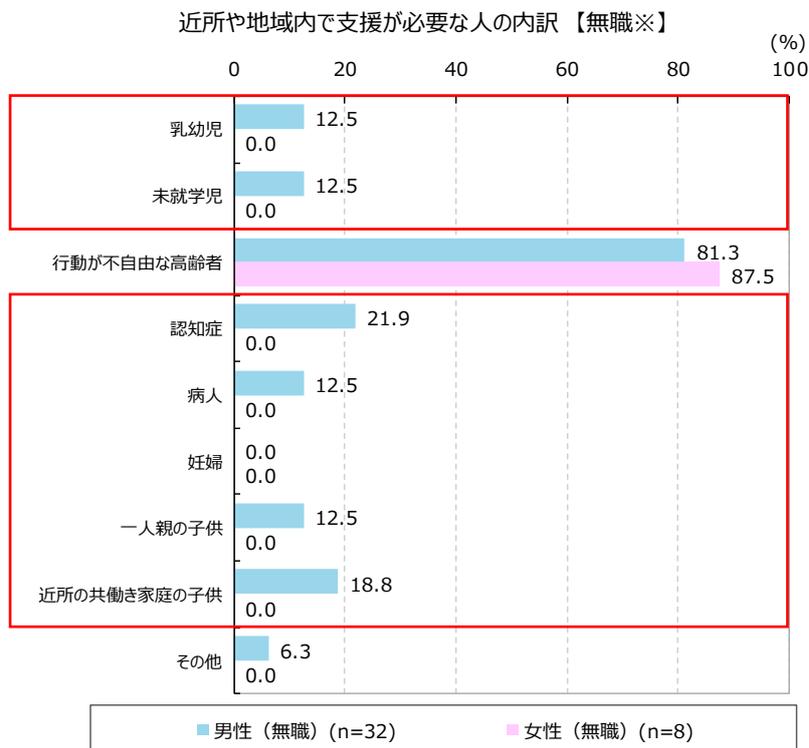
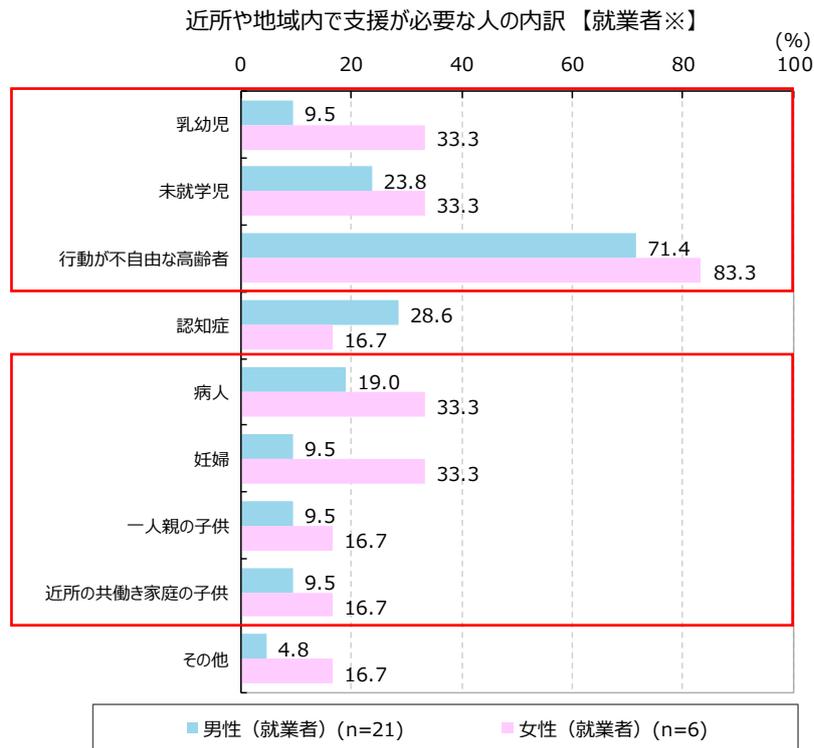


図 2-20 災害時に「近所や地域内で」支援する必要がある人の内訳
（男女・就業状況別）（四日市市）

※会社員・公務員、自営業・フリーランス、パート・アルバイトの合計

出所) 三菱総合研究所、平成 29 年度調査

災害時に避難する場合や避難所で過ごすときに、地域に頼れる人が「いない」と回答した人が約6%いた。また、「わからない」や「無回答」を含めると、災害時に頼れる人がいない人が、約35%いることが示された（図 2-21 参照）。

男女別で集計すると、災害時に地域で頼れる人が「いない」「わからない」と回答する人の割合は、女性において比較的高くなる傾向にあった（図 2-22 参照）。

設問2 あなたの地域には、災害時に避難する場合や避難所で過ごすときに、頼れる人はいますか。
① いる ② いない ③ わからない

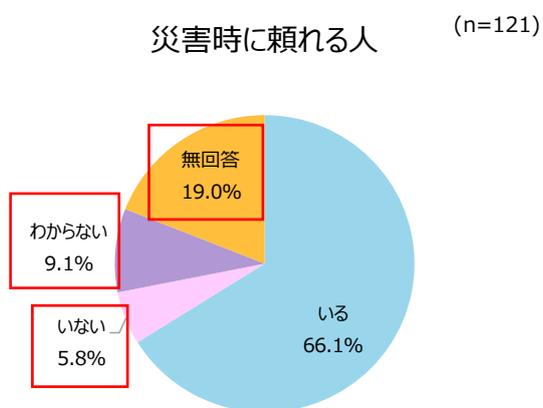


図 2-21 災害時に「地域内で」頼れる人（四日市市）

出所) 三菱総合研究所、平成 29 年度調査

➤ 設問 2-①×男女年齢

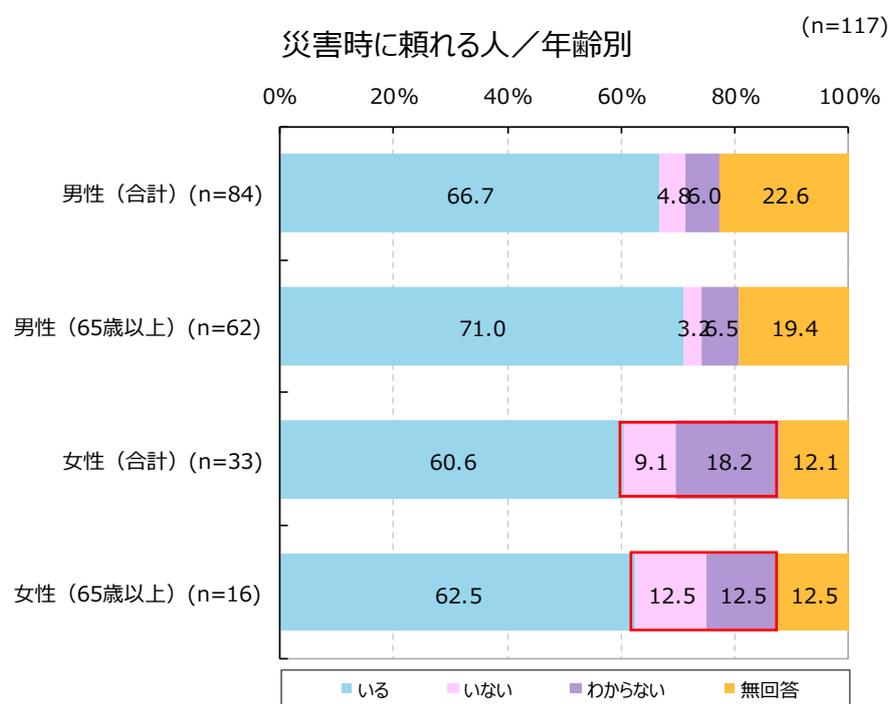


図 2-22 災害時に「地域内で」頼れる人（男女/年齢別）（四日市市）

出所) 三菱総合研究所、平成 29 年度調査

「災害時に『地域内で』頼れる人」の内訳としては、「町内会長、自治会長、町内会・自治会の役員」、「地域防災リーダー」、「民生委員」の順に回答が多かった（図 2-23 参照）。

性別・年齢別に集計すると、高齢者男女において「民生委員」を選ぶ人は少なくなる一方で、「これら以外のご近所・知人、親戚」を選ぶ人は多くなっており、全体傾向と異なっていた（図 2-24 参照）。

※なお、本アンケートの母集団が四日市市の自主防災組織役員（及び役員から個別に集会等での配布を要請された人）であることに留意する必要がある。

設問 2 で「①いる」と回答した方にお聞きします。それはどのような人ですか

①町内会長、自治会長、町内会・自治会の役員 ②地域の防災リーダー
 ③これら以外のご近所、知人、親せき
 ④子供を通じた学校等のつながり（PTA を含む）
 ⑤職場のつながり ⑥医療・福祉支援センター ⑦民生委員 ⑧ボランティア
 ⑨その他（ ）

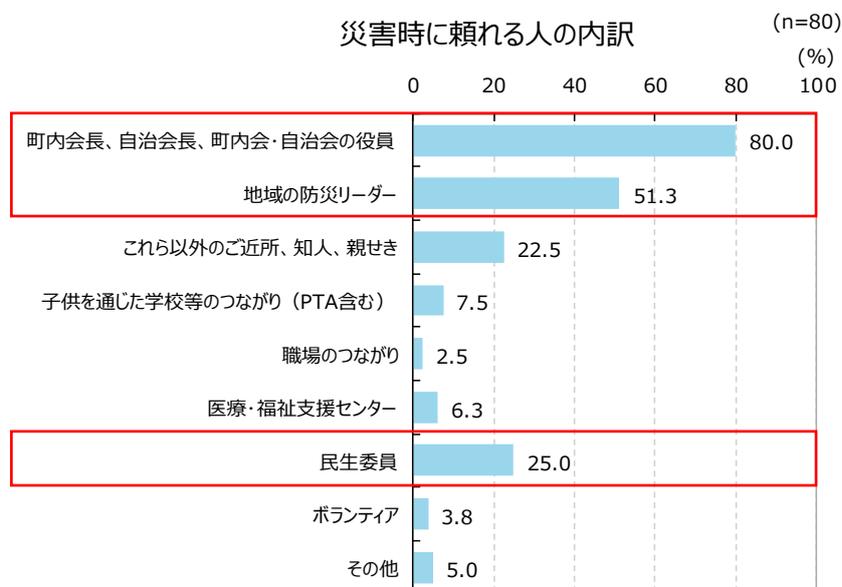


図 2-23 災害時に「地域内で」頼れる人（全体）（四日市市）

出所) 三菱総合研究所、平成 29 年度調査

➤ 設問 2-①×男女・年齢別

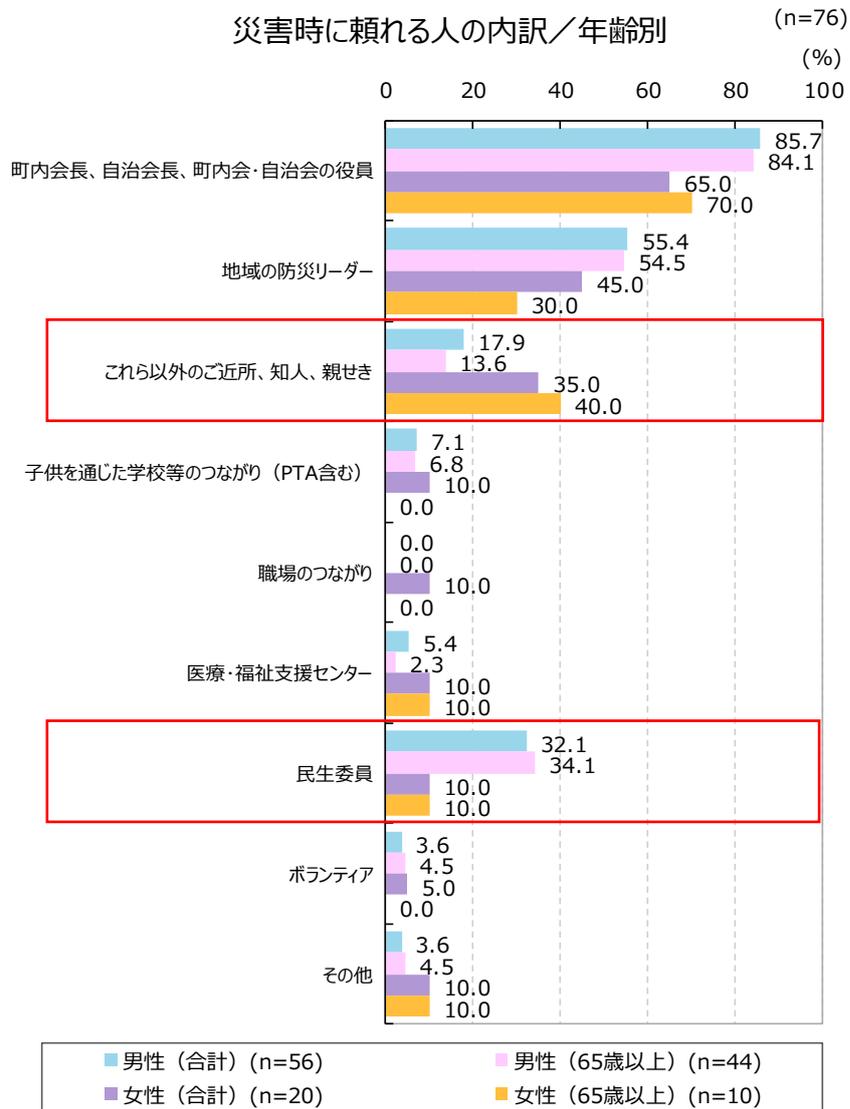


図 2-24 災害時に「地域内で」頼れる人の内訳 (男女別/年齢別) (四日市市)

出所) 三菱総合研究所、平成 29 年度調査

災害に備えた対策について、全体としては「地方の防災訓練・一般的防災講習への参加」、
「水・食料・薬等最低限必要なものの備蓄」、「家の中の安全確保（家具固定など）」・「町
内会・自治会が防災計画を作成する際に参加する」の順に回答が多くなった(図 2-25 参照)。

性別・年齢別に集計したところ、「地域や一緒に過ごすことが多い人と災害時について普
段から話し合っておく」、「町内会・自治会が防災計画を作成する際に参加する」、「地域
の防災訓練・一般的防災講習への参加」、「専門的防災講習等への参加」の選択肢を選んだ
割合は男性よりも女性、更に女性の中でも高齢者女性においてより低くなる傾向にあった
(図 2-26 参照)。

設問3 あなたは災害に備え、どのようなことを行っていますか。(複数回答)

- ①家の中の安全確保（家具固定など）
- ②建物の安全確保（耐震性の確保）
- ③水・食料・薬等最低限必要なものの備蓄
- ④地域や一緒に過ごすことが多い人と災害時について普段から話し合っておく
- ⑤町内会・自治会が防災計画を作成する際に参加する
- ⑥地域の防災訓練・一般的防災講習への参加
- ⑦専門的防災講習等への参加
- ⑧その他（ ）

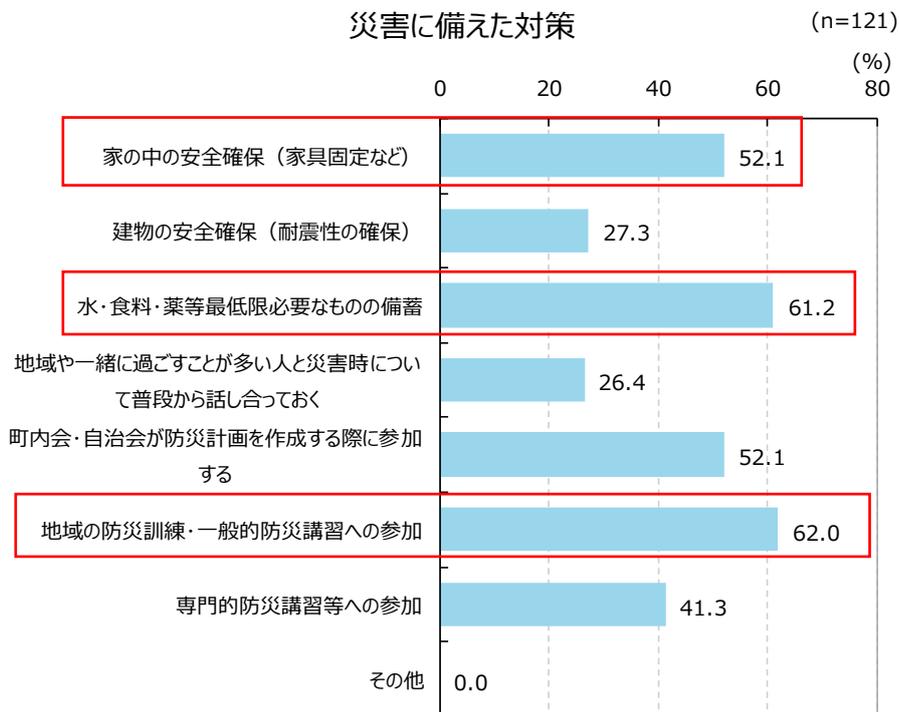


図 2-25 災害に備えて行っていること（全体）（四日市市）

出所) 三菱総合研究所、平成 29 年度調査

➤ 設問3×男女・年齢別

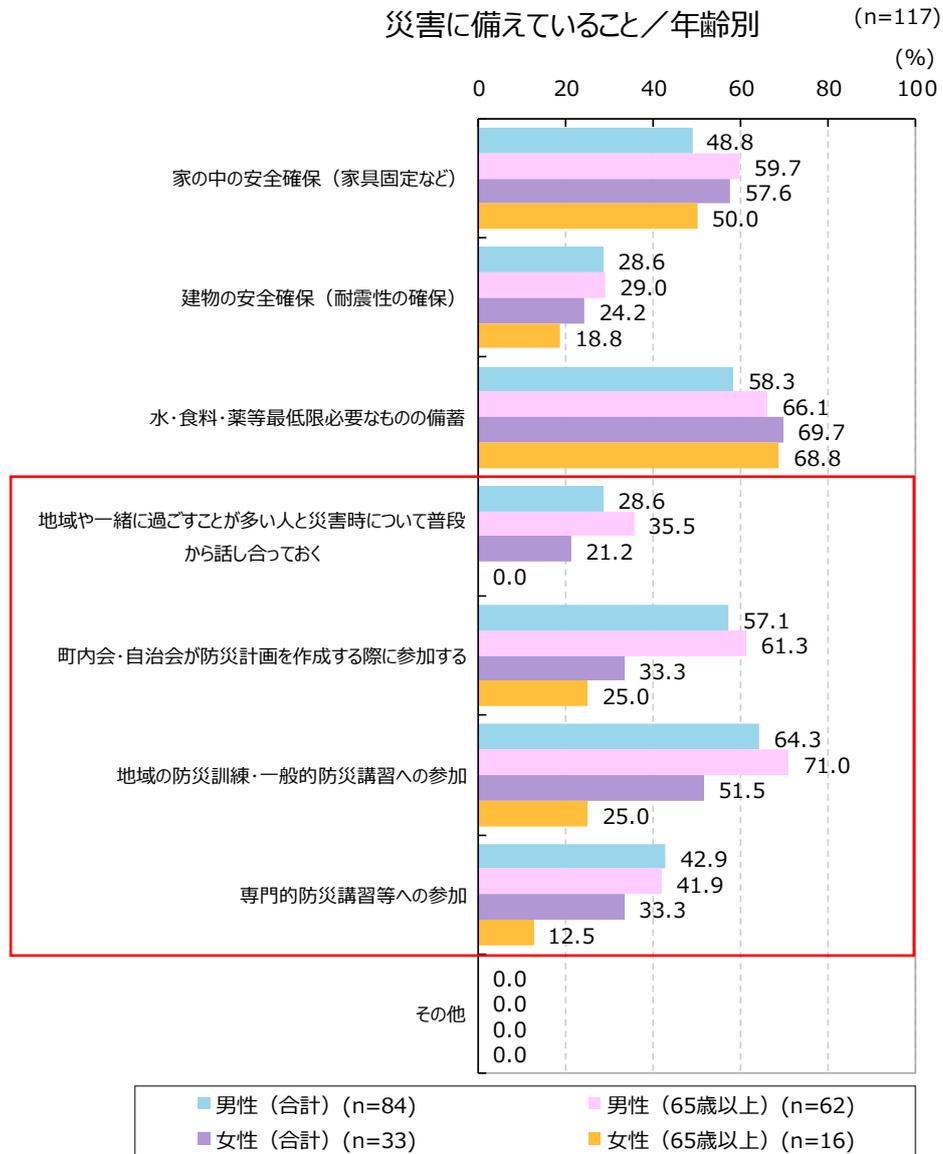


図 2-26 災害に備えて行っていること (男女別/年齢別) (四日市市)

出所) 三菱総合研究所、平成 29 年度調査

2.3 掛川市

災害時に回答者自身の支援を必要とする周囲の人については、「近所や地域内でひとりで避難することが難しそうな人」「家族で支援が必要な人」「近所や地域に住む人で、普段から知り合いの人」の順に回答者の割合が多くなっていた（図 2-27 参照）。

男女別に集計すると、女性は男性に比べて、家族、近所の住民、地域で保育・介護・世話している人のいずれの選択肢についても回答した人の割合が低く、一方で「特にイメージできる不安はない」と回答した人の割合が高くなっていた（図 2-28 参照）。

※なお、本分析においては全体の回答者数 n 値が小さいことに注意が必要。

設問 1 あなたは、災害時に避難する場合や避難所で過ごす場合、誰を助けたり、支援したりする必要がありますか。あてはまるもの全てご回答ください。（複数回答）

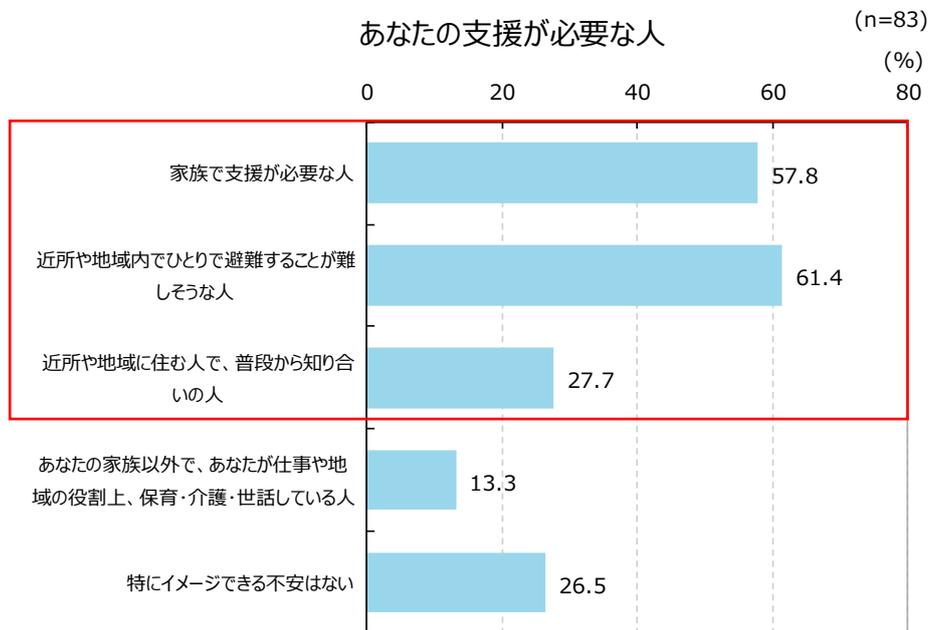


図 2-27 災害時に「あなたが」支援する必要がある人（掛川市）

出所) 三菱総合研究所、平成 29 年度調査

➤ 設問 1 × 男女・年齢別

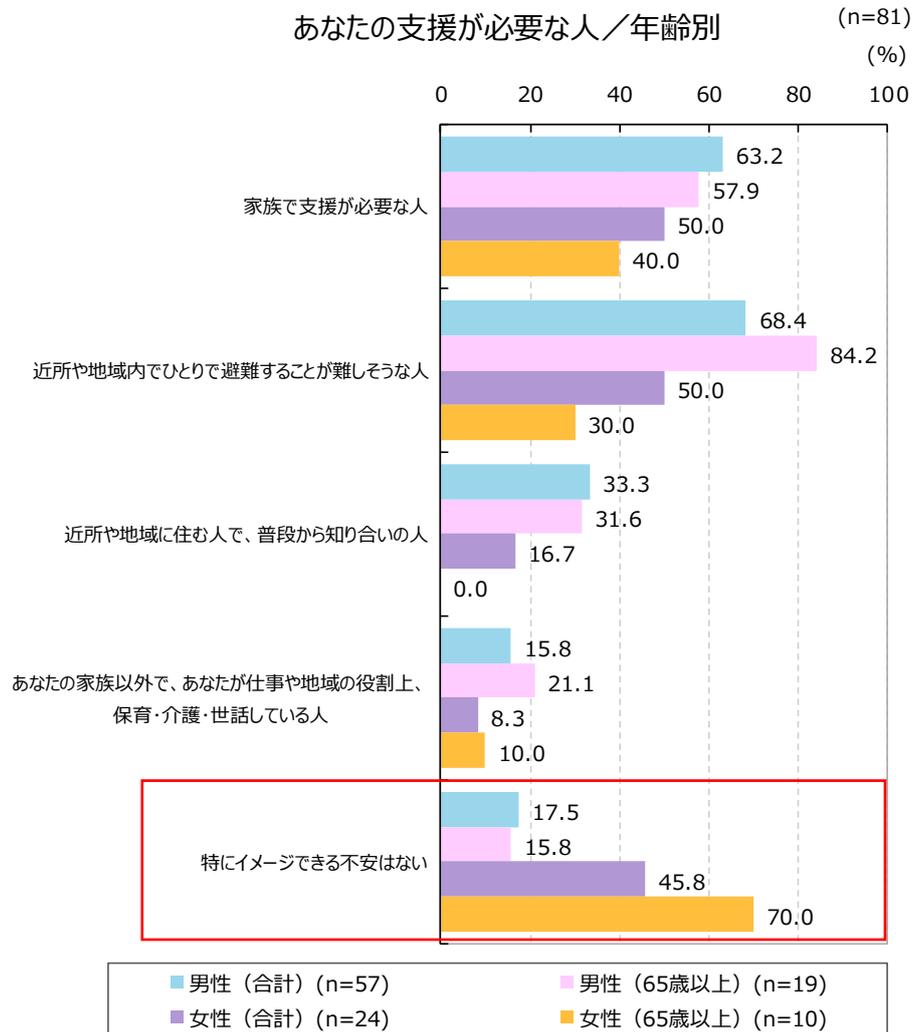


図 2-28 災害時に「あなたが」支援する必要がある人（男女別/年齢別）（掛川市）

出所) 三菱総合研究所、平成 29 年度調査

家族のうち、回答者の支援を必要とする人の内訳については、「行動が不自由な高齢者」が最も多く、その次に「未就学児」が多くなっていた（図 2-29 参照）。

男女別に集計すると、「その他」を除く全ての選択肢について、女性よりも男性の方が回答者の割合が高くなっていた（図 2-30 参照）。

年齢別に集計すると、「行動が不自由な高齢者」については、男性全体と女性全体との間に生じていた差は高齢者男女間においては拡大しており、また割合自体も高齢者男女共に増加している（図 2-30 参照）。

就業状況別にみると、「乳幼児」「未就学児」を選んだ回答者の割合は、無職男性に比べて就業男性の方が高くなっていた。また、「行動が不自由な高齢者」を選んだ回答者の割合は、無職男性が特に多くなっていた。「病人」を選んだ回答者の割合は、就業女性が特に多くなっていた（図 2-32 参照）。

※なお、本分析においては全体の回答者数 n 値が小さいことに注意が必要。

➤ 設問 1-①「① あなたの家族で、あなたの支援が必要な人」の内訳

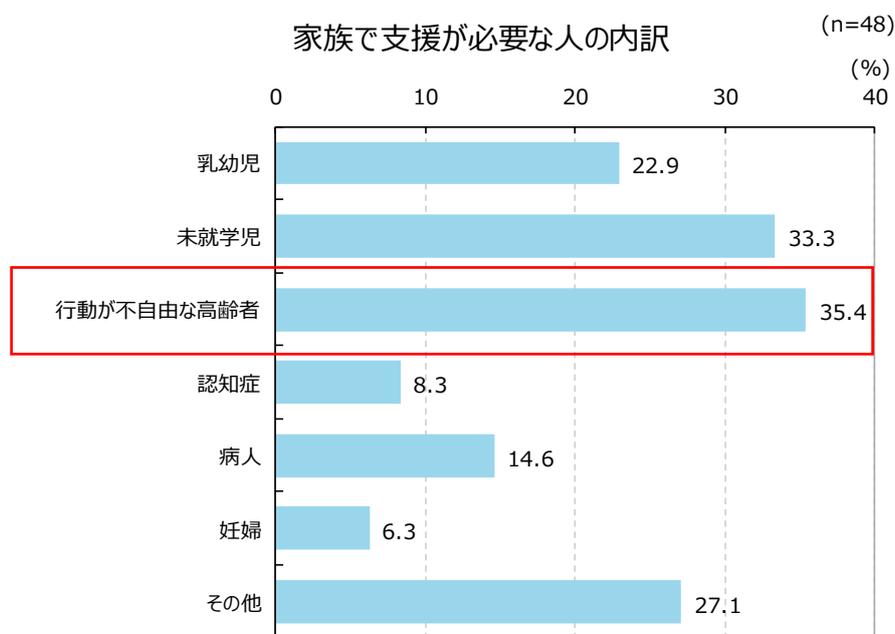


図 2-29 災害時に「家族で」支援する必要がある人の内訳
（全体）（掛川市）

出所）三菱総合研究所、平成 29 年度調査

➤ 設問 1-①×男女・年齢別

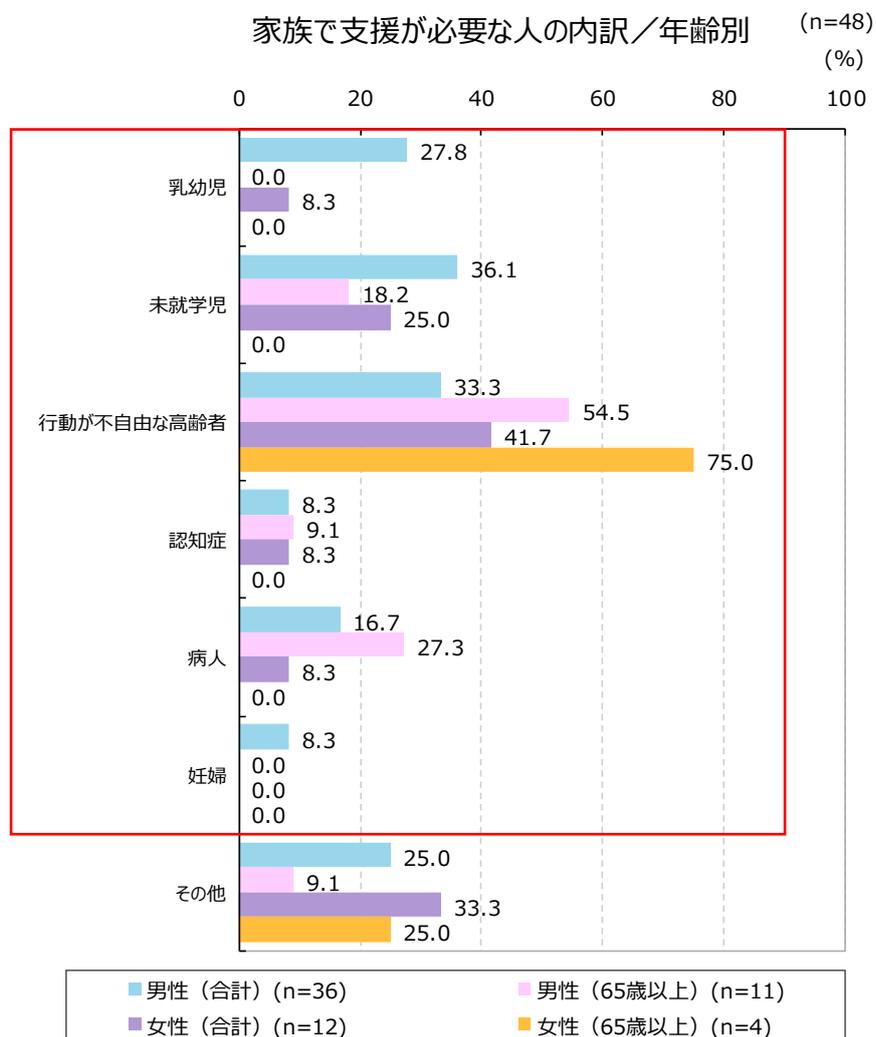


図 2-30 災害時に「家族で」支援する必要がある人の内訳
(男女別/年齢別) (掛川市)

出所) 三菱総合研究所、平成 29 年度調査

➤ 設問 1-①×男女・就業状況別

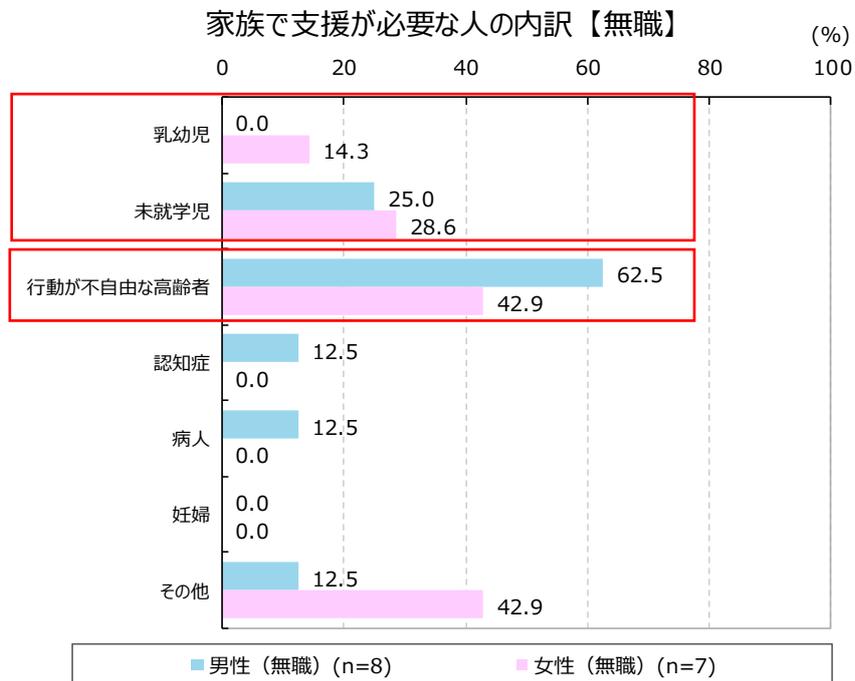
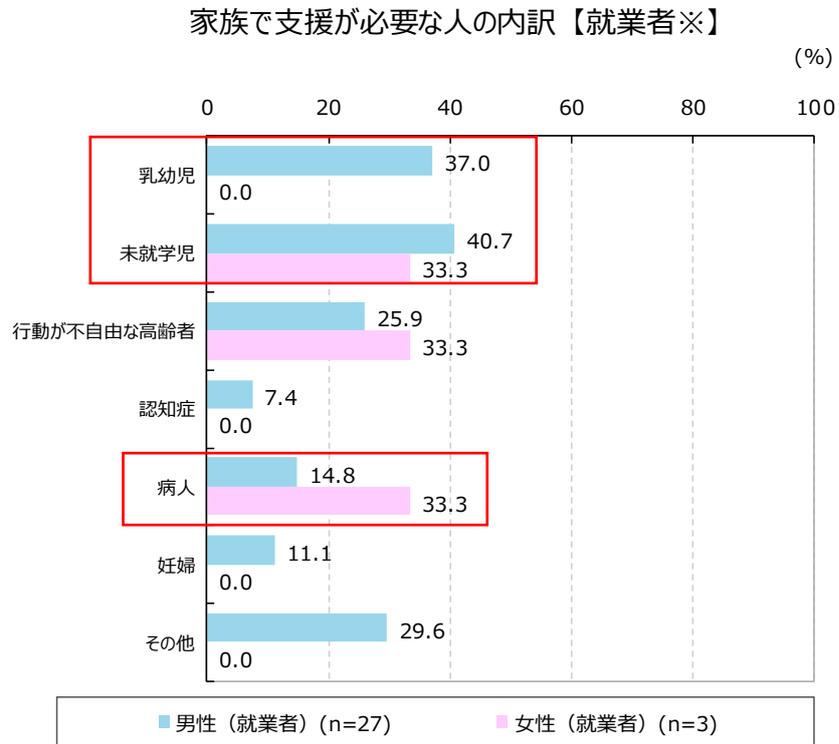


図 2-31 災害時に「家族で」支援する必要がある人の内訳
(男女別/就業状況別)(掛川市)

※会社員・公務員、自営業・フリーランス、パート・アルバイトの合計

出所) 三菱総合研究所、平成 29 年度調査

近所や地域内で回答者自身の支援を必要とする人の内訳については、回答者全体では「行動が不自由な高齢者」が最も多く、その次に「乳幼児」「未就学児」が同数で多くなっていた（図 2-32 参照）。

男女別で集計すると、「乳幼児」「未就学児」「妊婦」「一人親の子供」「近所の共働き家庭の子供」の選択肢について、女性よりも男性の方が回答者の割合が高くなっていた。ただし、「行動が不自由な高齢者」については、年齢別に集計すると、高齢者男性で回答した人の割合が最も高くなっていた（図 2-33 参照）。

就業状況別に集計すると、「行動が不自由な高齢者」を選んだ回答者の割合は、男性については就業者よりも無職の方が高くなるが、女性は就業者よりも無職の方が低くなっていた。また、「乳幼児」「未就学児」「認知症」「妊婦」は、男性については就業者よりも無職の方が低くなるが、女性は就業者よりも無職の方が高くなっていた。更に、「近所の共働き家庭の子供」については、男女共に就業者よりも無職の方が回答者の割合が高くなっていた（図 2-34 参照）。

※なお、本分析においては全体の回答者数 n 値が小さいことに注意が必要。

➤ 設問 1-②「② 近所や地域に住む、ひとりで避難することが難しそうな人」の内訳

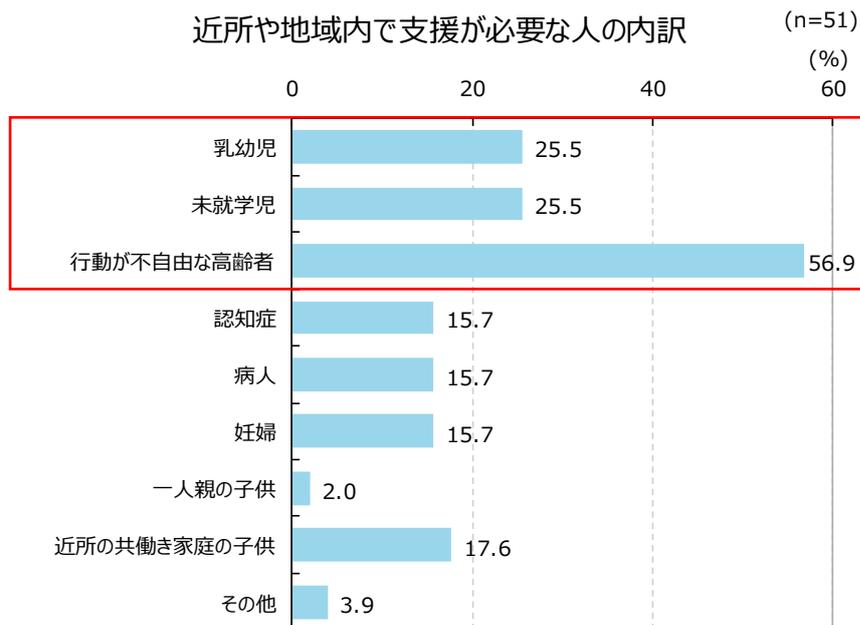


図 2-32 災害時に「近所や地域内で」支援する必要がある人の内訳
(全体) (掛川市)

出所) 三菱総合研究所、平成 29 年度調査

➤ 設問 1 -②×男女・年齢別

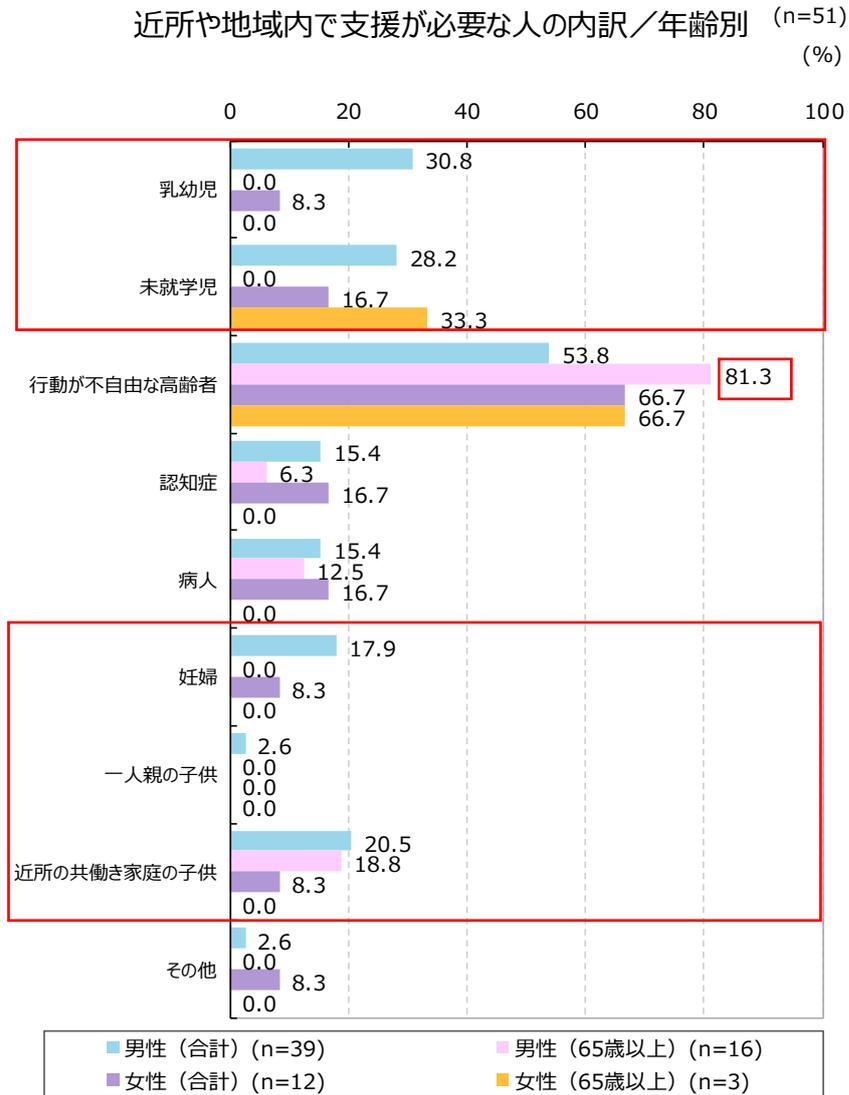


図 2-33 災害時に「近所や地域内で」支援する必要がある人の内訳
(男女別/年齢別) (掛川市)

出所) 三菱総合研究所、平成 29 年度調査

➤ 設問 1-②×男女・職業状況別

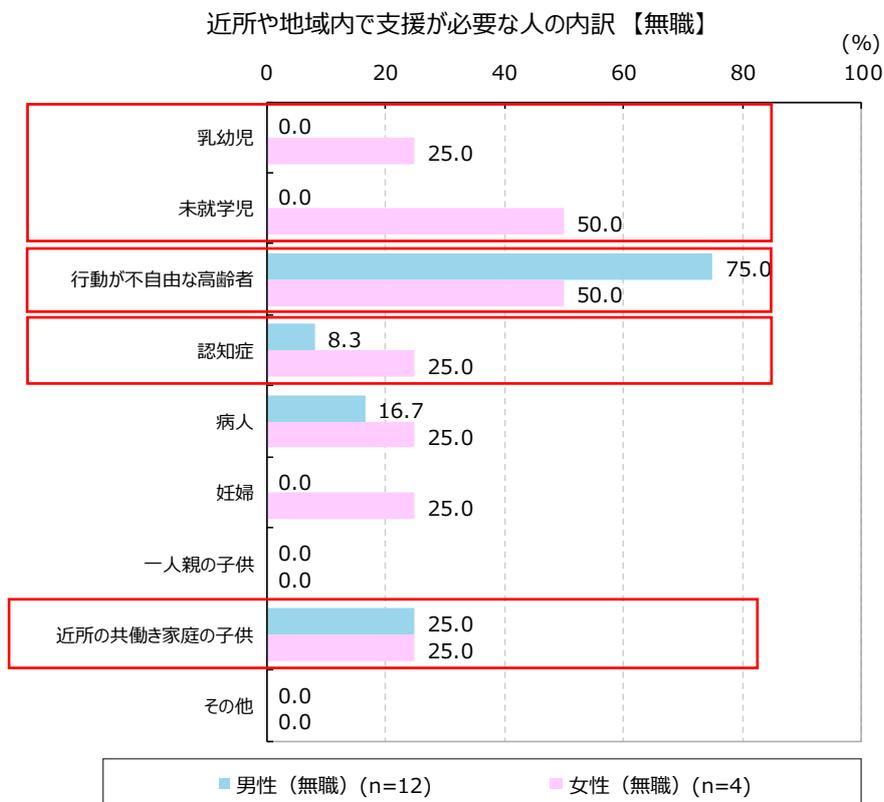
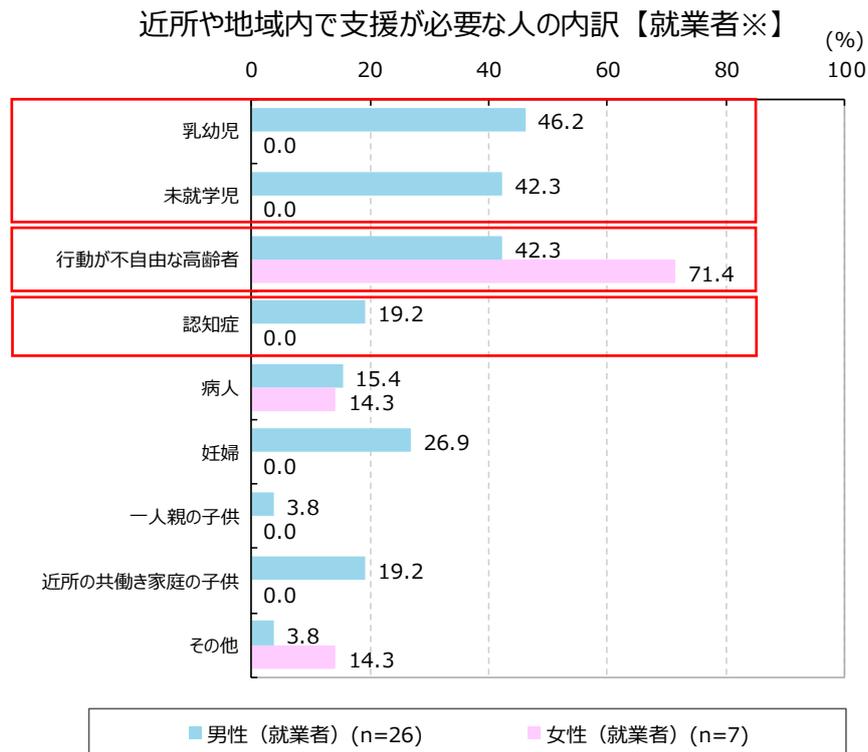


図 2-34 災害時に「近所や地域内で」支援する必要がある人の内訳
(男女別/就業状況別)(掛川市)

※会社員・公務員、自営業・フリーランス、パート・アルバイトの合計

出所) 三菱総合研究所、平成 29 年度調査

災害時に避難する場合や避難所で過ごすときに、地域に頼れる人が「いない」と回答した人が約 8.4%いた。また、「わからない」や「無回答」を含めると、災害時に頼れる人の具体的なイメージが持てない人/頼れる人がいない人が、約 30%いることが示された（図 2-35 図 2-21 参照）。

男女別に集計すると、「いない」「わからない」と回答した人の割合は女性でより高く、更に年齢別にみると高齢者女性において特に高くなることが示された（図 2-36 参照）。

※なお、本分析においては全体の回答者数 n 値が小さいことに注意が必要。

設問 2 あなたの地域には、災害時に避難する場合や避難所で過ごすときに、頼れる人はいますか。
① いる ② いない ③ わからない

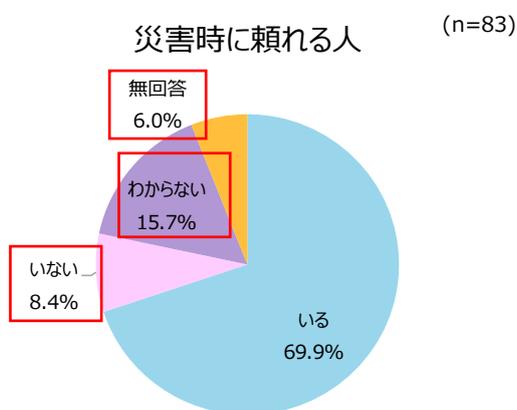


図 2-35 災害時に「地域内で」頼れる人（掛川市）

出所）三菱総合研究所、平成 29 年度調査

➤ 設問 2-①×男女年齢

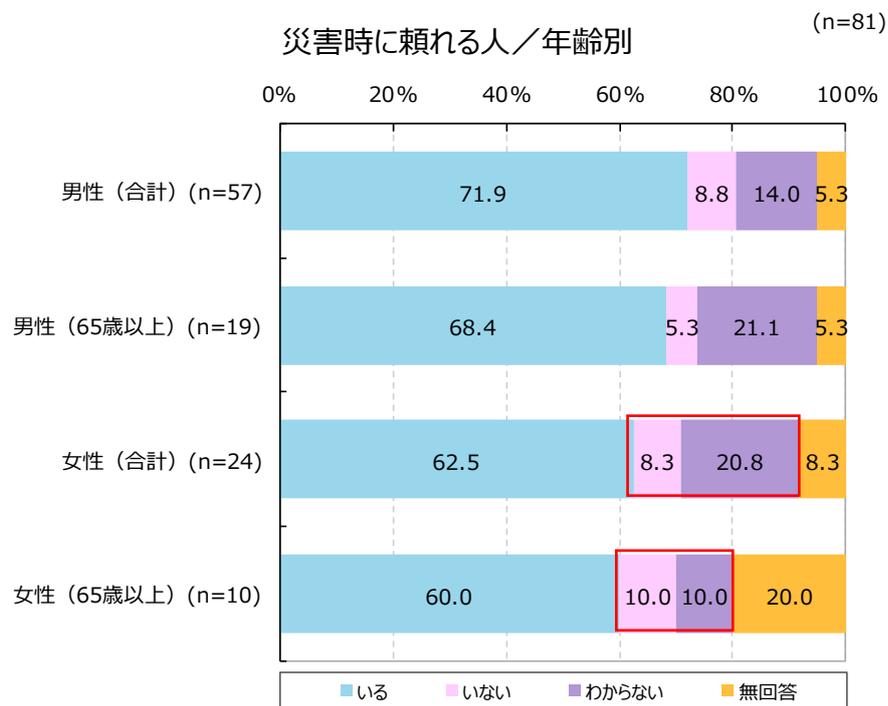


図 2-36 災害時に「地域内で」頼れる人（男女別/年齢別）（掛川市）

出所) 三菱総合研究所、平成 29 年度調査

災害時に頼れる人の内訳について、回答者全体では、「町内会長、自治会長、町内会・自治会の役員」「地域の防災リーダー」「これら以外のご近所、知人、親せき」の順に割合が多くなっていた（図 2-37 参照）。

男女別に集計すると、「地域の防災リーダー」「これら以外のご近所、知人、親せき」を選んだ回答者の割合が、特に女性において高くなっていた。一方で、高齢者女性の中で「地域の防災リーダー」を選んだ回答者の割合は、最も低くなっていた（図 2-38 参照）。

また、「医療・福祉支援センター」「民生委員」を選んだ回答者の割合は、高齢者男性において最も高くなっていた（図 2-38 参照）。

※なお、本分析においては全体の回答者数 n 値が小さいことに注意が必要。

設問 2 で「①いる」と回答した方にお聞きします。それはどのような人ですか

①町内会長、自治会長、町内会・自治会の役員 ②地域の防災リーダー
 ③これら以外のご近所、知人、親せき
 ④子供を通じた学校等のつながり（PTA を含む）
 ⑤職場のつながり ⑥医療・福祉支援センター ⑦民生委員 ⑧ボランティア
 ⑨その他（ ）

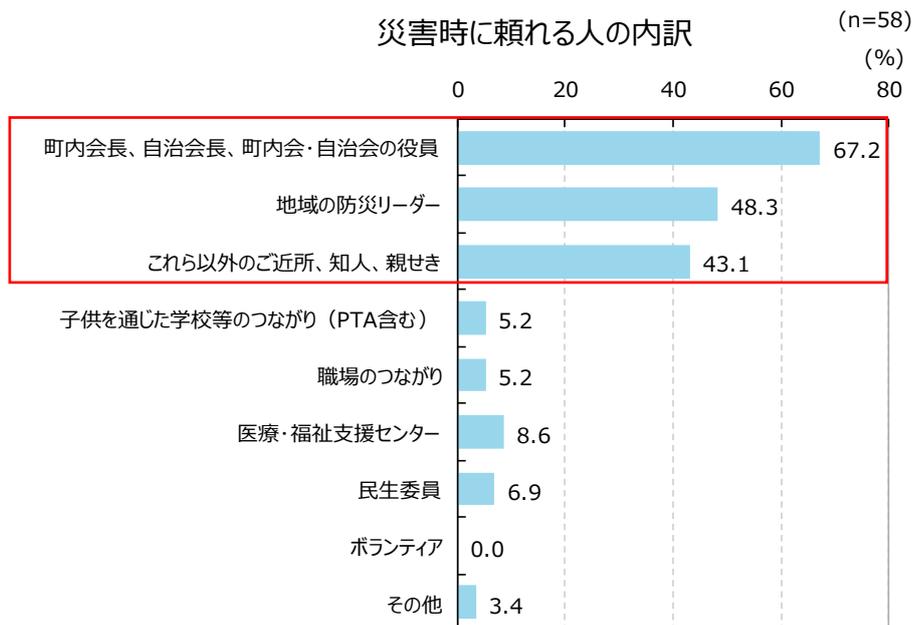


図 2-37 災害時に「地域内で」頼れる人（全体）（掛川市）

出所) 三菱総合研究所、平成 29 年度調査

➤ 設問 2-①×男女・年齢別

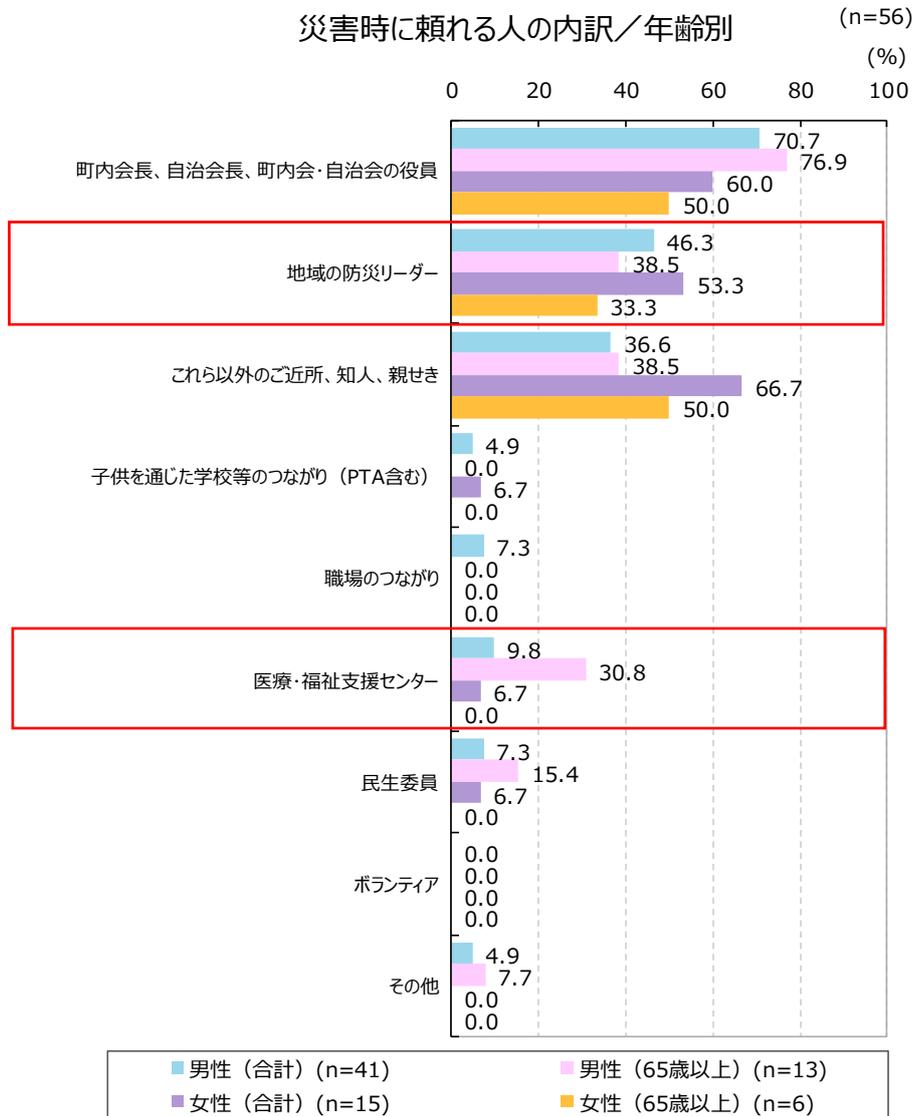


図 2-38 災害時に「地域内で」頼れる人の内訳 (男女別/年齢別) (掛川市)

出所) 三菱総合研究所、平成 29 年度調査

災害への備えについては、回答者全体では「地域の防災訓練・一般的防災講習への参加」、「水・食料・薬等最低限必要なものの備蓄」、「家の中の安全確保（家具固定など）」の順で割合が多くなっていた（図 2-39 参照）。

男女別で集計すると、「建物の安全確保（耐震性の確保）」を選んだ回答者の割合は、女性よりも男性においてより高くなっていた。また、年齢別で集計すると、「その他」以外の全ての選択肢について、高齢者女性で回答した人の割合が最も低くなっていた（図 2-40 参照）。

※なお、本分析においては全体の回答者数 n 値が小さいことに注意が必要。

- 設問3 あなたは災害に備え、どのようなことを行っていますか。（複数回答）
- ①家の中の安全確保（家具固定など）
 - ②建物の安全確保（耐震性の確保）
 - ③水・食料・薬等最低限必要なものの備蓄
 - ④地域や一緒に過ごすことが多い人と災害時について普段から話し合っておく
 - ⑤町内会・自治会が防災計画を作成する際に参加する
 - ⑥地域の防災訓練・一般的防災講習への参加
 - ⑦専門的防災講習等への参加
 - ⑧その他（ ）

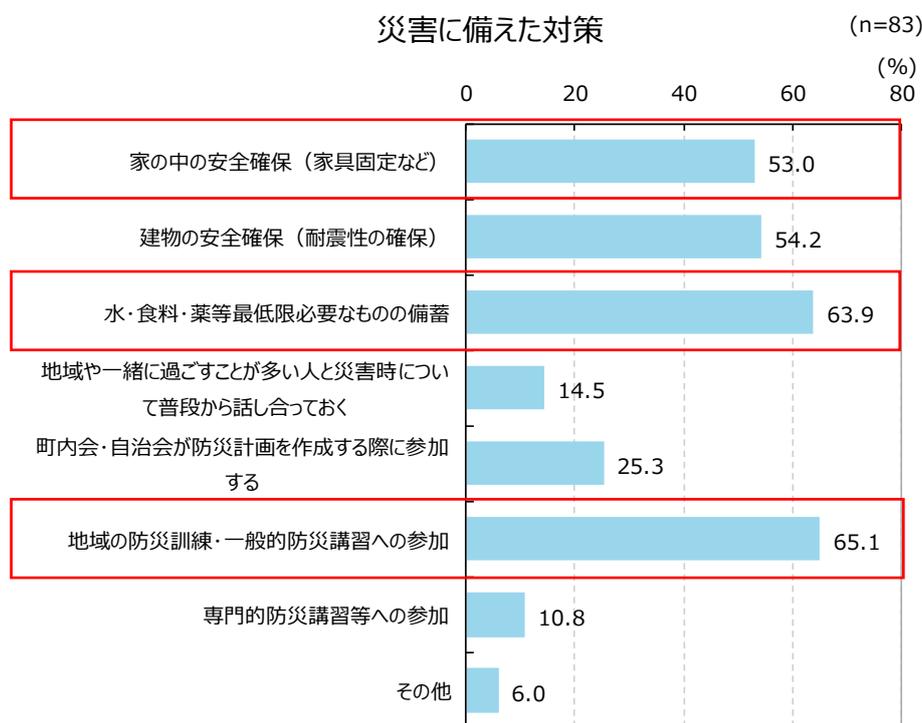


図 2-39 災害に備えて行っていること（掛川市）

出所) 三菱総合研究所、平成 29 年度調査

➤ 設問3 × 男女・年齢別

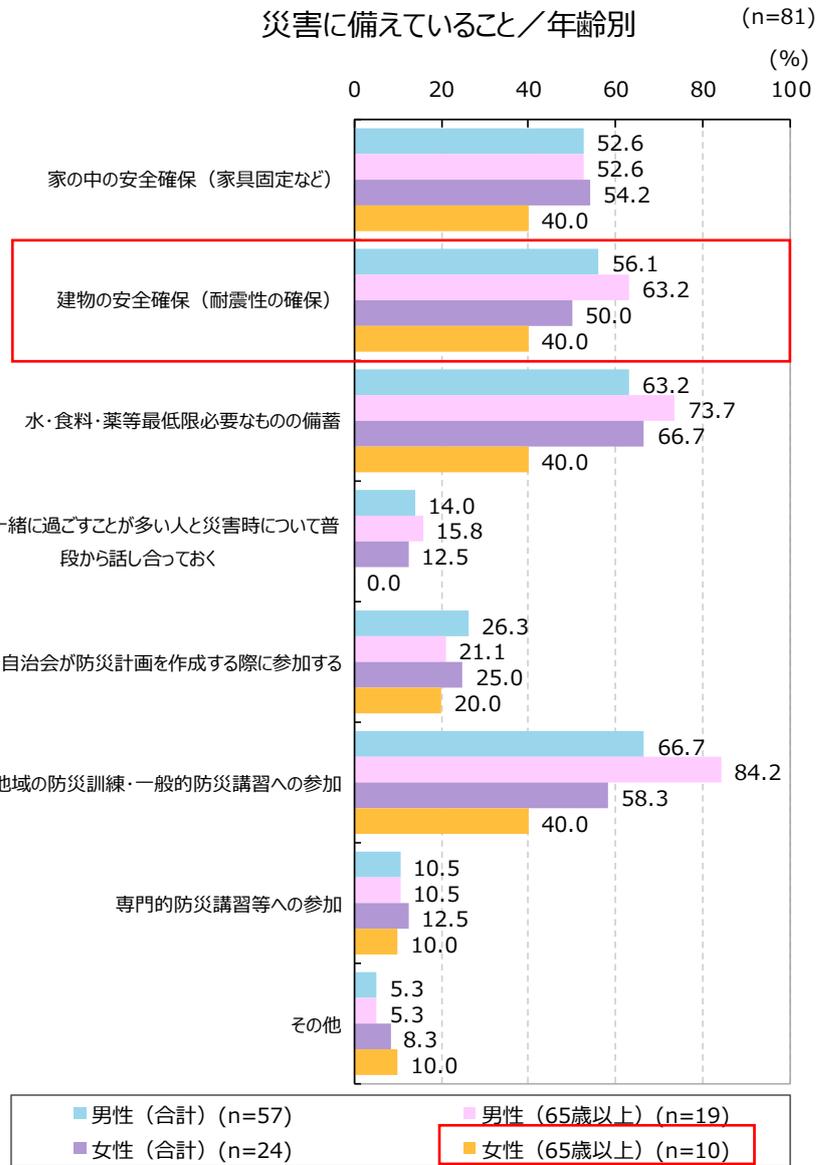


図 2-40 災害に備えて行っていること (男女別/年齢別) (掛川市)

出所) 三菱総合研究所、平成 29 年度調査

2.4 富山市

災害時に回答者自身の支援を必要とする周囲の人については、「近所や地域内でひとりで避難することが難しそうな人」、「近所や地域に住む人で、普段から知り合いの人」、「家族で支援が必要な人」の順に回答が多かった（図 2-41 参照）。

男女別に集計すると、「家族で支援が必要な人」、「近所や地域内でひとりで避難することが難しそうな人」、「近所や地域に住む人で、普段から知り合いの人」、「あなたの家族以外で、あなたが仕事や地域の役割上、保育・介護・世話している人」を選んだ回答者の割合は、女性よりも男性の方がより多くなっていた。また、「特にイメージできる不安はない」を選んだ回答者の割合は、女性の方が多くなっていた。（図 2-42 参照）

年齢別の集計結果をみると、「近所や地域に住む人で、普段から知り合いの人」を選んだ回答者の割合が、女性全体では 24.6%であるのに対し、高齢者女性は 44.4%と約 20%の差が生じていた。（図 2-42 参照）

設問 1 あなたは、災害時に避難する場合や避難所で過ごす場合、誰を助けたり、支援したりする必要がありますか。あてはまるもの全てご回答ください。（複数回答）

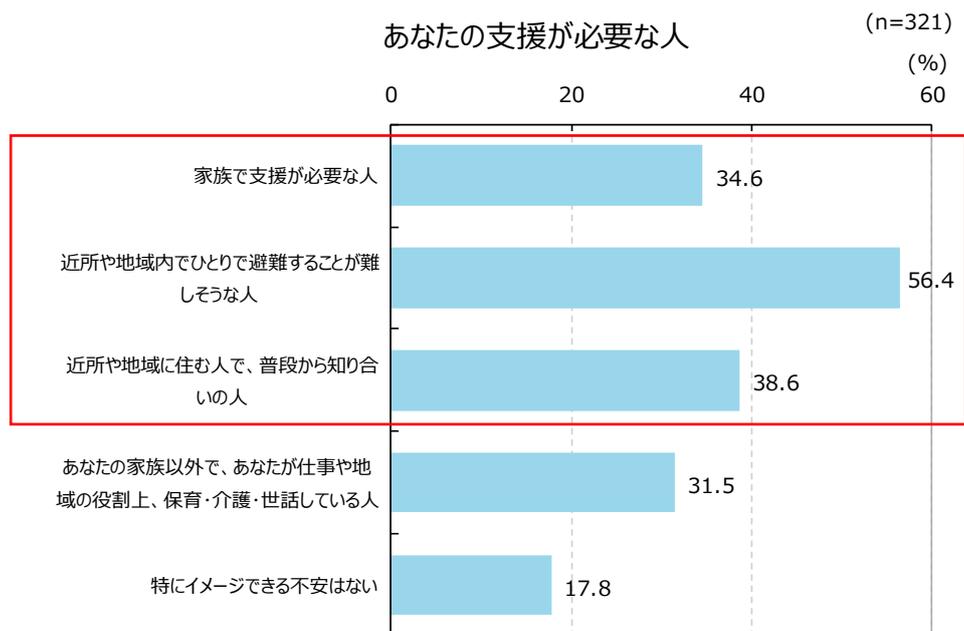


図 2-41 災害時に「あなたが」支援する必要がある人（富山市）

出所) 三菱総合研究所、平成 29 年度調査

➤ 設問 1 × 男女・年齢別

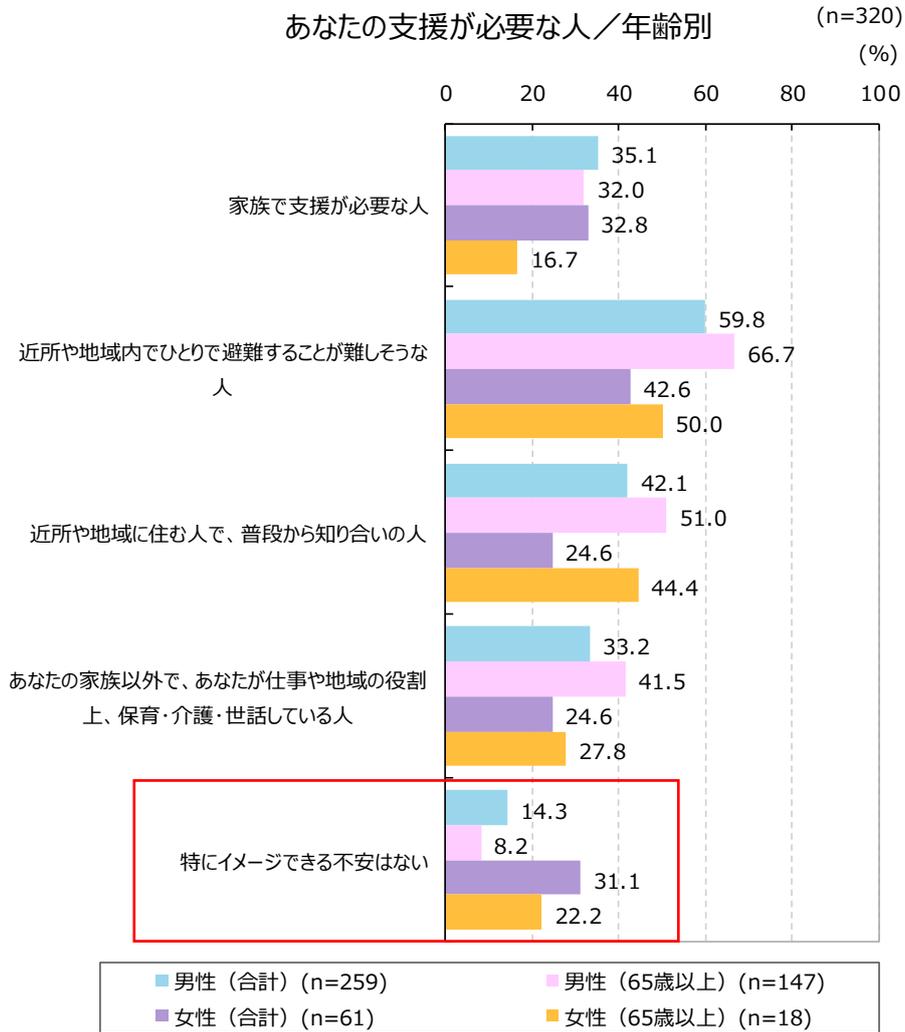


図 2-42 災害時に「あなたが」支援する必要がある人（男女別/年齢別）（富山市）

出所) 三菱総合研究所、平成 29 年度調査

回答者の家族のうち、支援する必要がある人の内訳としては、回答者全体では「行動が不自由な高齢者」が最も多く、その次に「未就学児」が多くなっていた（図 2-43）。

男女別に集計すると、「行動が不自由な高齢者」を選んだ回答者の割合は女性に特に多くなっていた（図 2-44 参照）。また、「認知症」「病人」についても、全体の回答数自体は少ないものの、回答者の割合は女性の方が比較的高くなっていた（図 2-44）。

年齢別に集計すると、高齢者女性の回答者において、「未就学児」を選んだ人の割合が特に高くなっていた（図 2-44 参照）。

就業状況別に集計すると、「行動が不自由な高齢者」を選んだ回答者の割合は、就業者においては女性の方が高くなっていたが、無職においては男性の方が多くなっていた。また、「未就学児」を選んだ回答者の割合は、就業者においては男性の方が高くなっていたが、無職においては女性の方に多くなっていた。（図 2-45 参照）

➤ 設問 1-①「① あなたの家族で、あなたの支援が必要な人」の内訳

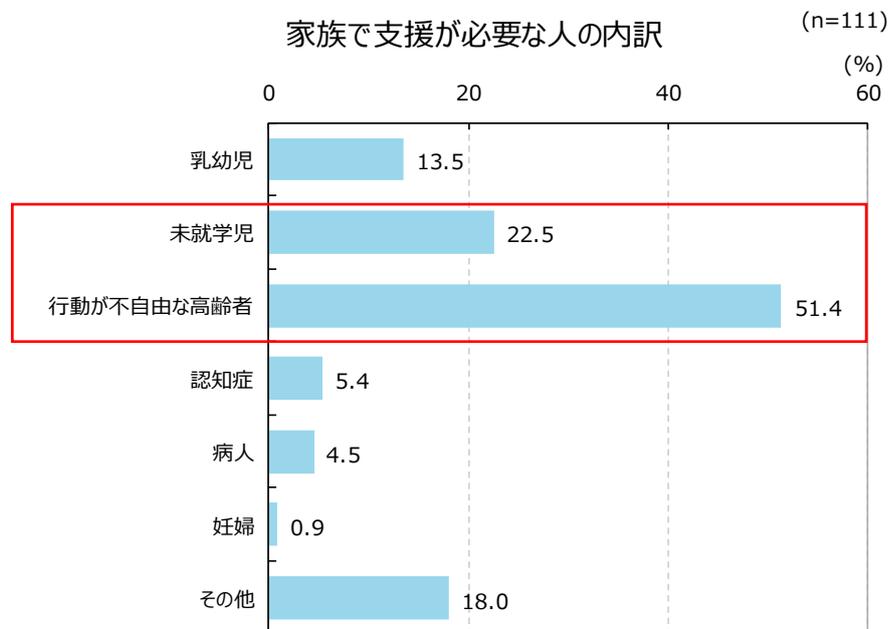


図 2-43 災害時に「家族で」支援する必要がある人の内訳
(全体) (富山市)

出所) 三菱総合研究所、平成 29 年度調査

➤ 設問 1-①×男女・年齢別

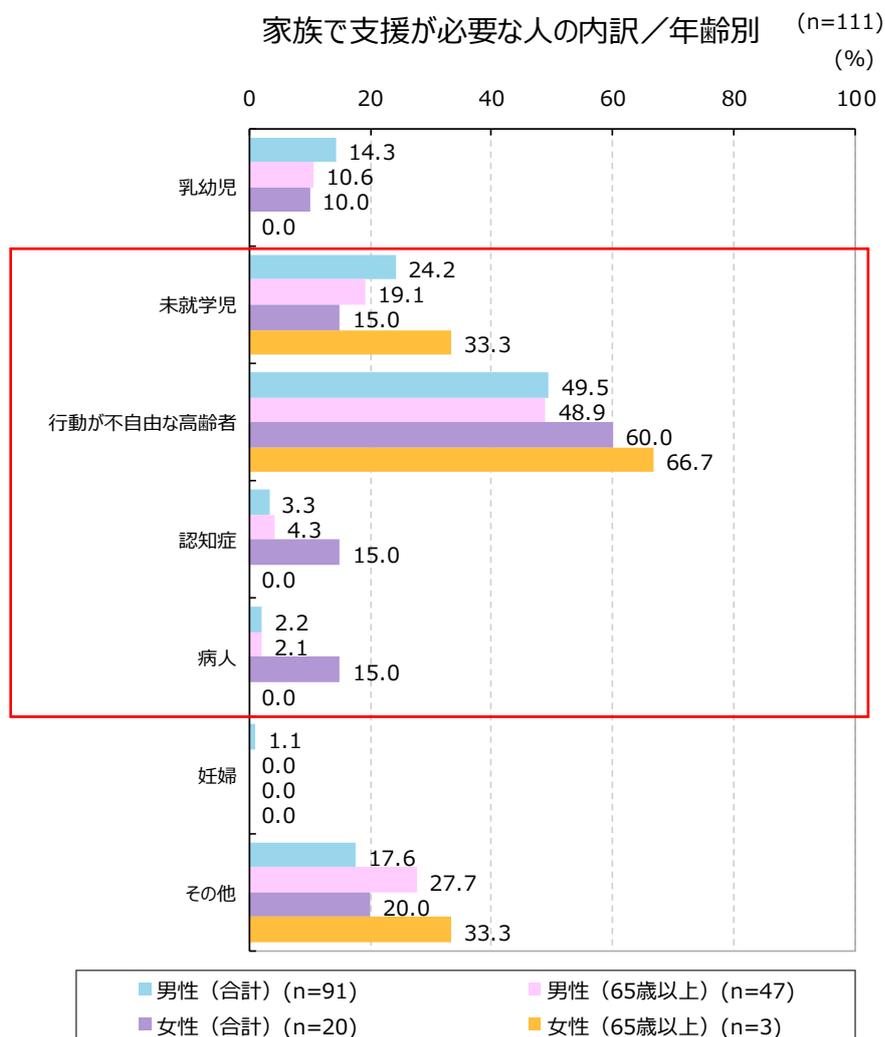


図 2-44 災害時に「家族で」支援する必要がある人の内訳
(男女別/年齢別) (富山市)

出所) 三菱総合研究所、平成 29 年度調査

➤ 設問 1-①×男女・就業状況別

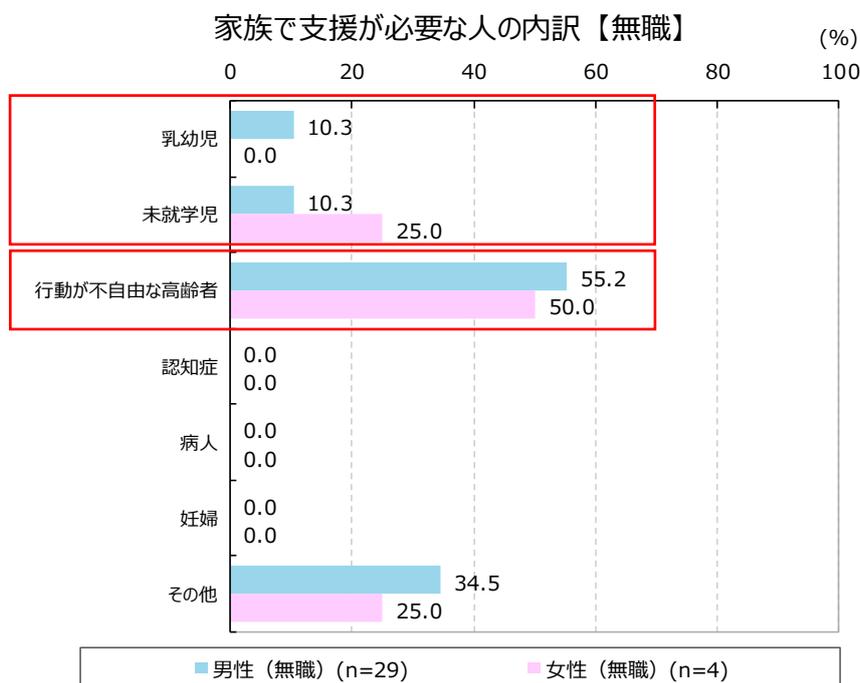
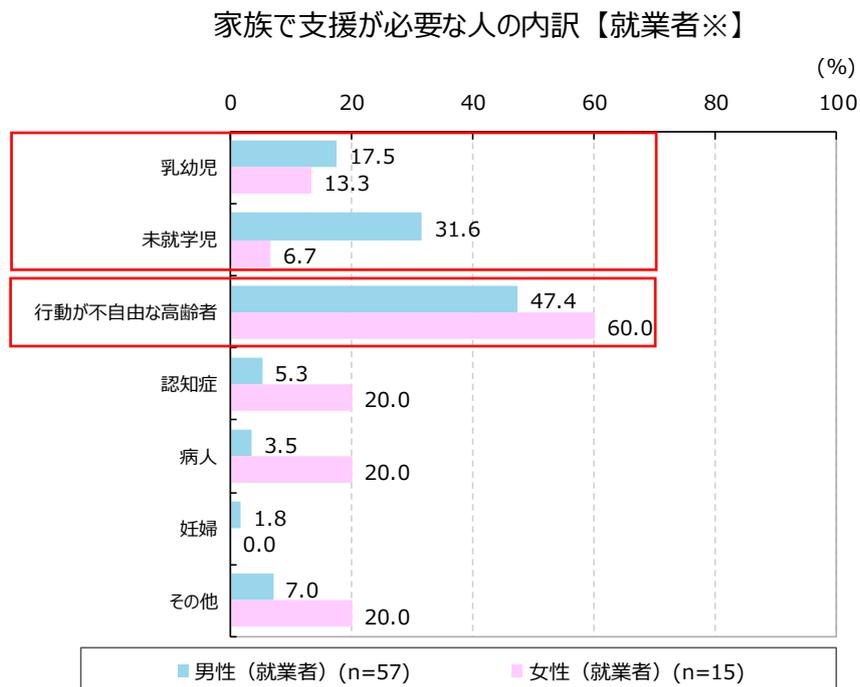


図 2-45 災害時に「家族で」支援する必要がある人の内訳
 (男女別/就業状況別) (富山市)
 ※会社員・公務員、自営業・フリーランス、パート・アルバイトの合計

出所) 三菱総合研究所、平成 29 年度調査

近所や地域内で支援を必要としている人については、全体では「行動が不自由な高齢者」、
「認知症」、「病人」の順で回答が多くなっていた（図 2-46 参照）。

近所や地域内で支援が必要な人の内訳について、回答者全体では「行動が不自由な高齢者」
が最も多くなっていた。

男女別・年齢別で集計すると、「認知症」を選んだ回答者の割合は男性よりも女性の方が、
更に女性の中では高齢者女性の方が、より高くなっていた（図 2-47 参照）。

就業状況別で集計すると、就業女性と無職女性を比べると、「認知症」を選んだ回答者は
無職女性により多くなっていた（図 2-48 参照）。また、同様に就業女性と無職女性を比較
した場合、「乳幼児」「未就学児」を選んだ回答者は無職女性により多くなっていた。一方、
「妊婦」や「近所の共働き家庭の子供」を選んだ回答者は、無職女性よりも就業女性により
多くなっていた。

※なお、本分析においては女性回答者数 n 値が小さいことに注意が必要。

➤ 設問 1-②「② 近所や地域に住む、ひとりで避難することが難しそうな人」の内訳

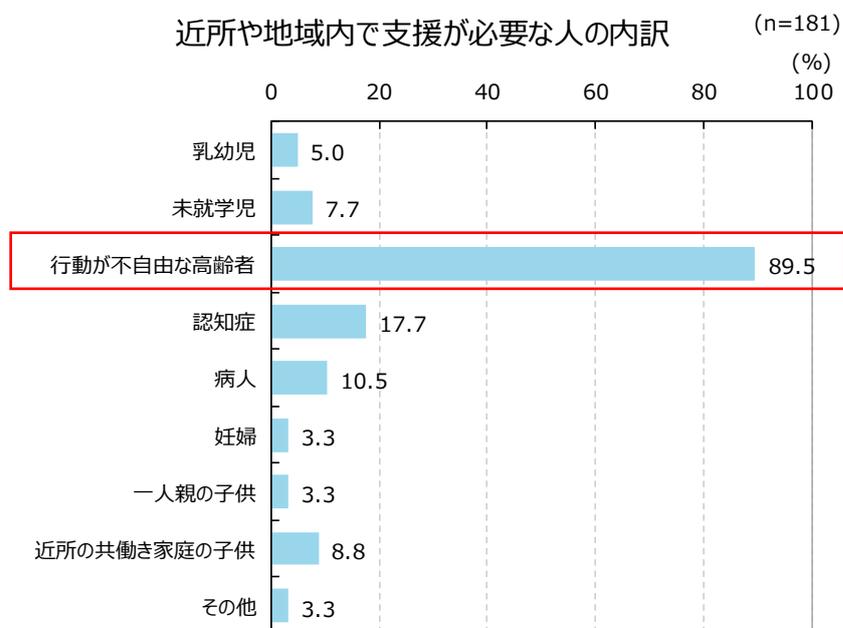


図 2-46 災害時に「近所や地域内で」支援する必要がある人の内訳
(全体) (富山市)

出所) 三菱総合研究所、平成 29 年度調査

➤ 設問 1-②×男女・年齢別

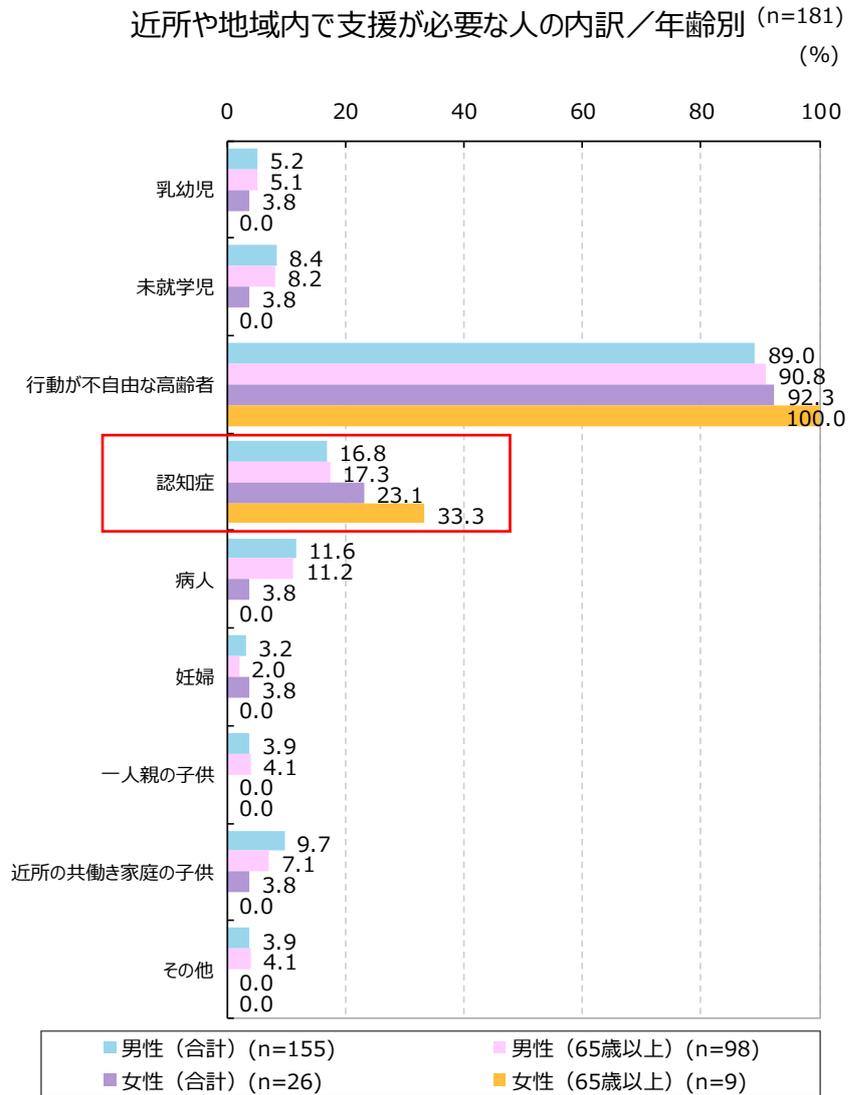


図 2-47 災害時に「近所や地域内で」支援する必要がある人の内訳 (男女別/年齢別) (富山市)

出所) 三菱総合研究所、平成 29 年度調査

➤ 設問 1-②×男女・職業状況別

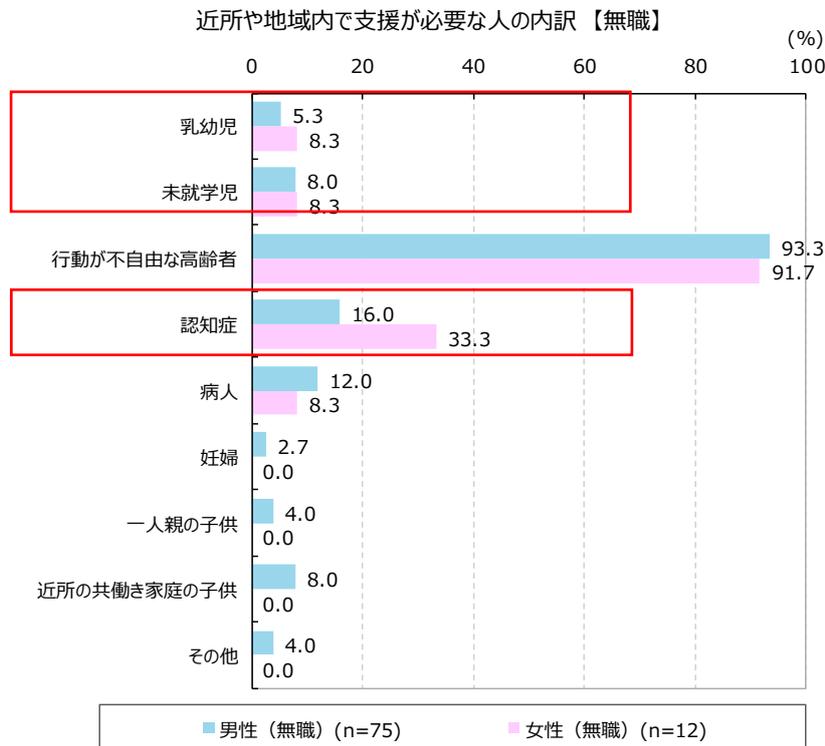
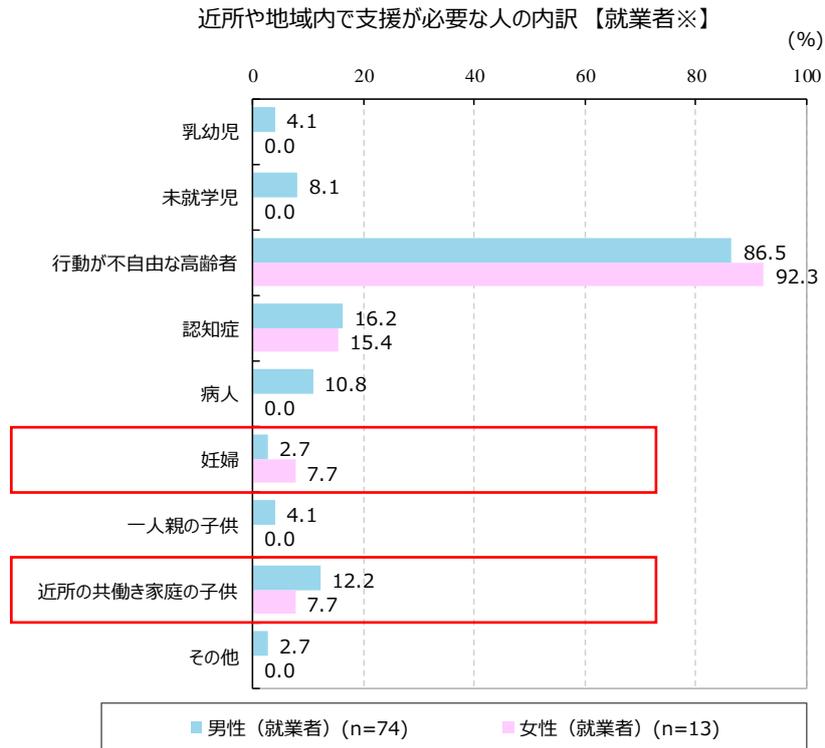


図 2-48 災害時に「近所や地域内で」支援する必要がある人の内訳
 (男女別/就業状況別) (富山市)
 ※会社員・公務員、自営業・フリーランス、パート・アルバイトの合計

出所) 三菱総合研究所、平成 29 年度調査

災害時に避難する場合や避難所で過ごすときに、地域に頼れる人が「いない」と回答した人が約 14.3%いた。また、「わからない」や「無回答」を含めると、災害時に頼れる人の具体的なイメージが持てない人/頼れる人がいない人が、約 40%いることが示された（図 2-49 参照）。

男女別に集計すると、「いない」「わからない」と回答した人の割合は女性でより高く、更に年齢別にみると「いない」という回答は高齢者女性において特に多くなることが示された（図 2-50 参照）。

設問 2 あなたの地域には、災害時に避難する場合や避難所で過ごすときに、頼れる人はいますか。
① いる ② いない ③ わからない

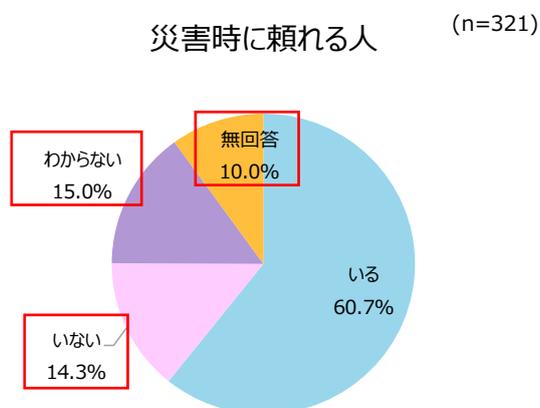


図 2-49 災害時に「地域内で」頼れる人（富山市）

出所) 三菱総合研究所、平成 29 年度調査

➤ 設問 2-①×男女年齢

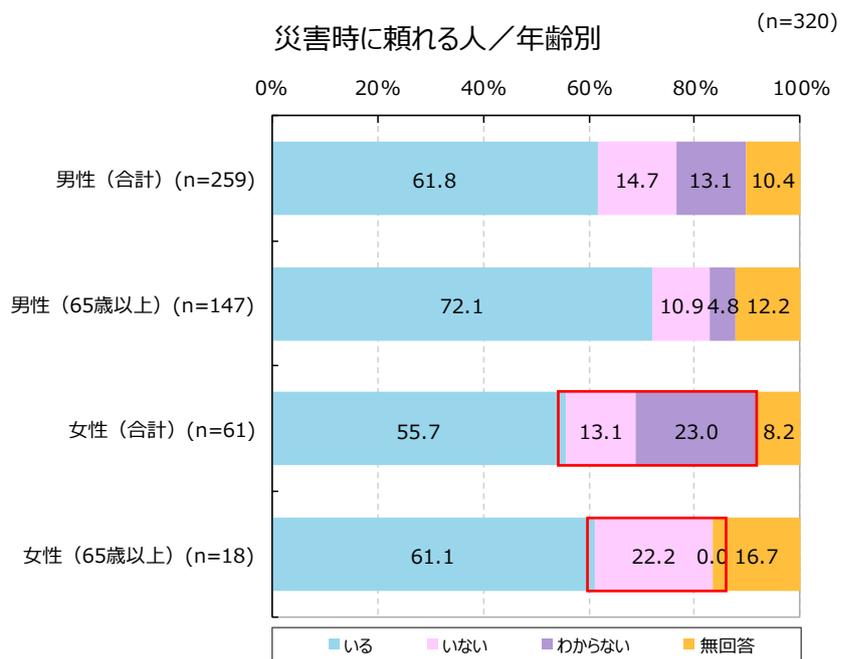


図 2-50 災害時に「地域内で」頼れる人（男女別/就業状況別）（富山市）

出所) 三菱総合研究所、平成 29 年度調査

災害時に地域で頼れる人の内訳をみると、回答者全体では、「町内会長、自治会長、町内会・自治会の役員」「これら以外のご近所、知人、親せき」「地域の防災リーダー」の順に回答が多くなっていた。

男女別に集計すると、女性は男性と比べて、頼れる人として町内会長や自治会長と同等に、それら以外の「ご近所、知人、親戚」をあげる割合が高くなっていた。また、ボランティアをあげる割合は、女性においてやや高くなっていた（図 2-52 参照）。

設問2で「①いる」と回答した方にお聞きします。それはどのような人ですか

①町内会長、自治会長、町内会・自治会の役員 ②地域の防災リーダー
 ③これら以外のご近所、知人、親せき
 ④子供を通じた学校等のつながり（PTAを含む）
 ⑤職場のつながり ⑥医療・福祉支援センター ⑦民生委員 ⑧ボランティア
 ⑨その他（ ）

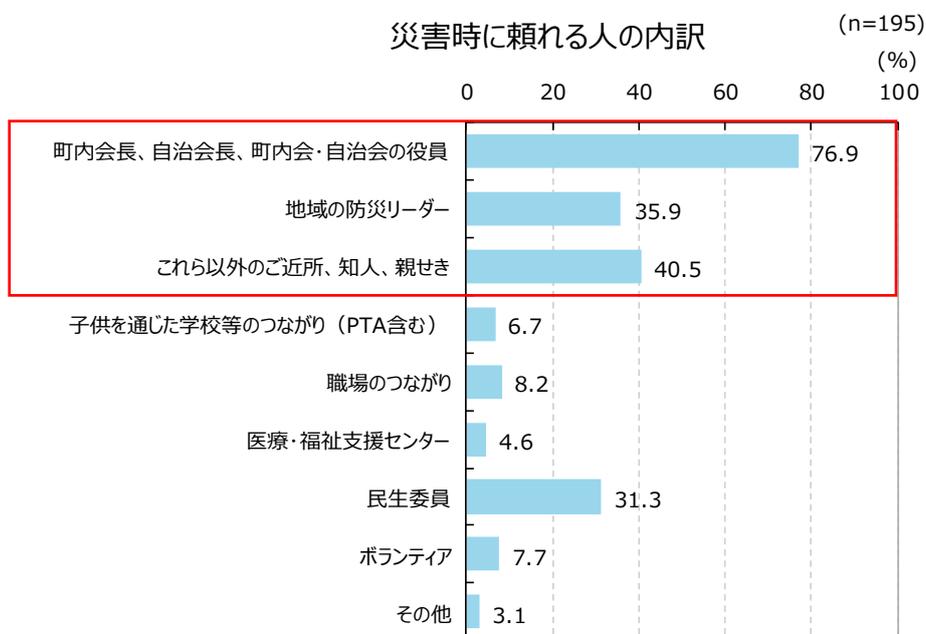


図 2-51 災害時に「地域内で」頼れる人（全体）（富山市）

出所) 三菱総合研究所、平成 29 年度調査

➤ 設問 2-①×男女・年齢別

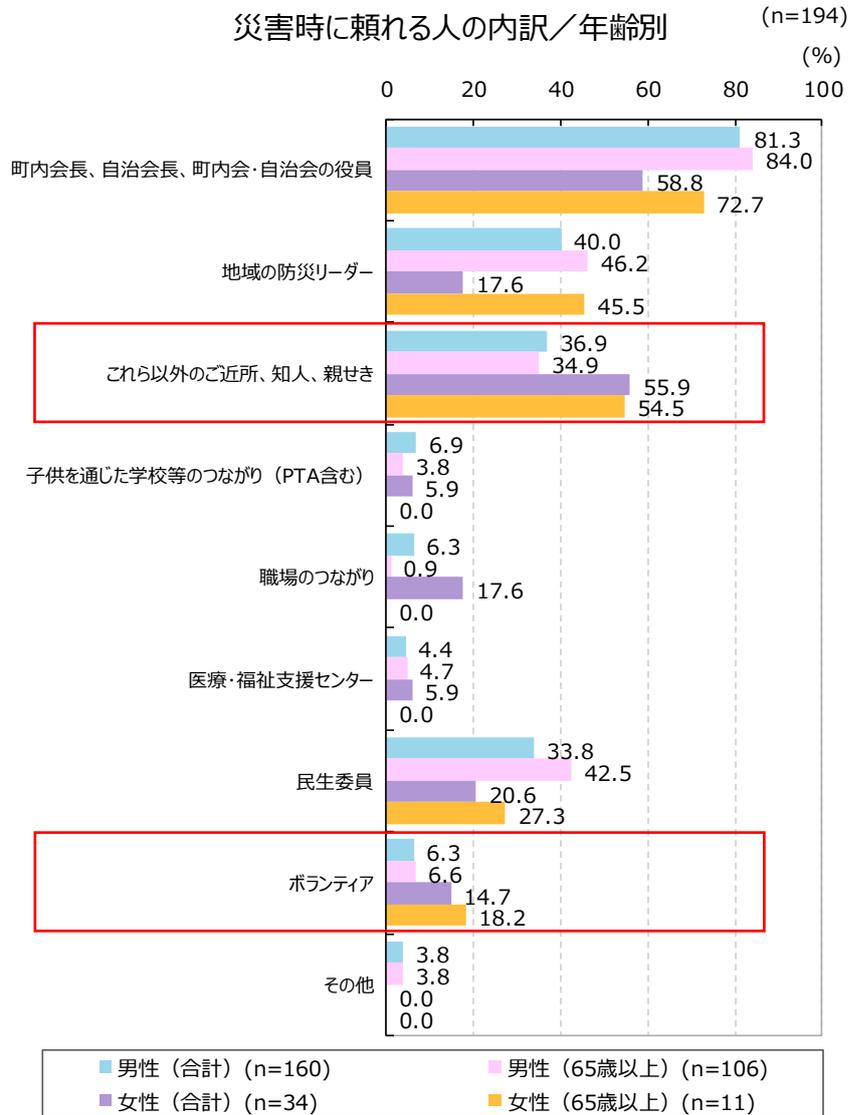


図 2-52 災害時に「地域内で」頼れる人の内訳 (男女別/年齢別) (富山市)

出所) 三菱総合研究所、平成 29 年度調査

災害時の備えについては、回答者全体としては、「地域の防災訓練・一般的防災講習への参加」「水・食料・薬等最低限必要なものの備蓄」「町内会・自治会が防災計画を作成する際に参加する」の順に多くなっていた。

男女別に集計すると、「水・食料・薬等最低限必要なものの備蓄」と回答した人の割合は、女性が男性よりも高くなっていた。一方、「家の中の安全確保（家具固定など）」や「建物の安全確保（耐震性の確保）」については、男性が女性よりも高くなっていた（図 2-54 参照）。

また、「町内会・自治会が防災計画を作成する際に参加する」や「地域の防災訓練・一般的防災講習への参加」を選んだ割合については、全年齢層では女性が男性と比べて低くなっている。一方で、高齢者に限定すると、男女間の差はなく、いずれも 60～70%代で比較的高い割合となっている（図 2-54 参照）。

設問 3 あなたは災害に備え、どのようなことを行っていますか。（複数回答）

- ①家の中の安全確保（家具固定など）
- ②建物の安全確保（耐震性の確保）
- ③水・食料・薬等最低限必要なものの備蓄
- ④地域や一緒に過ごすことが多い人と災害時について普段から話し合っておく
- ⑤町内会・自治会が防災計画を作成する際に参加する
- ⑥地域の防災訓練・一般的防災講習への参加
- ⑦専門的防災講習等への参加
- ⑧その他（ ）

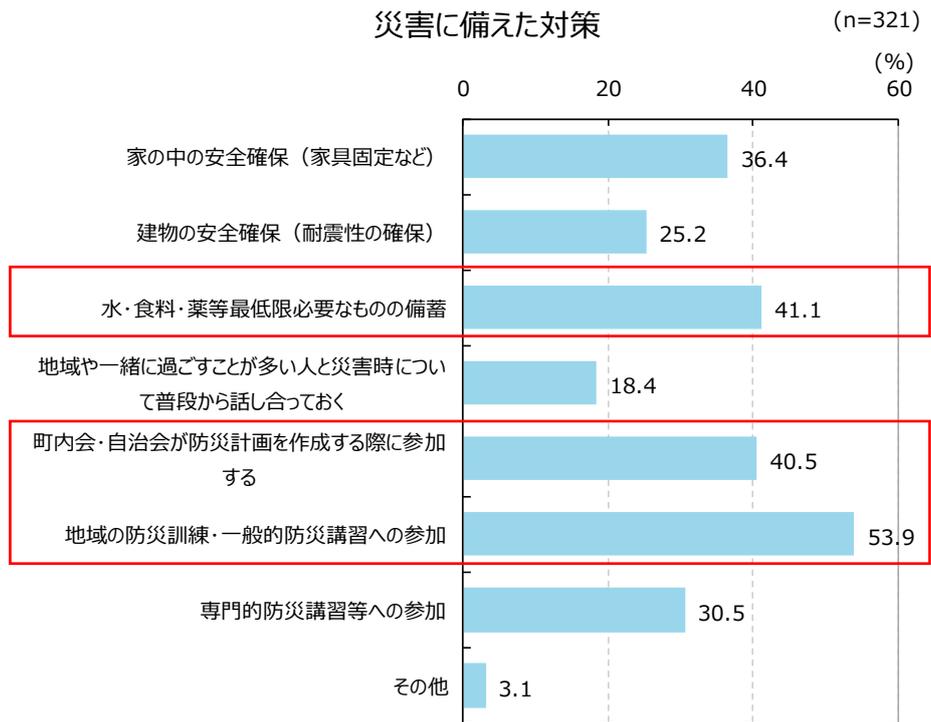


図 2-53 災害に備えて行っていること（全体）（富山市）

出所）三菱総合研究所、平成 29 年度調査

➤ 設問3 × 男女・年齢別

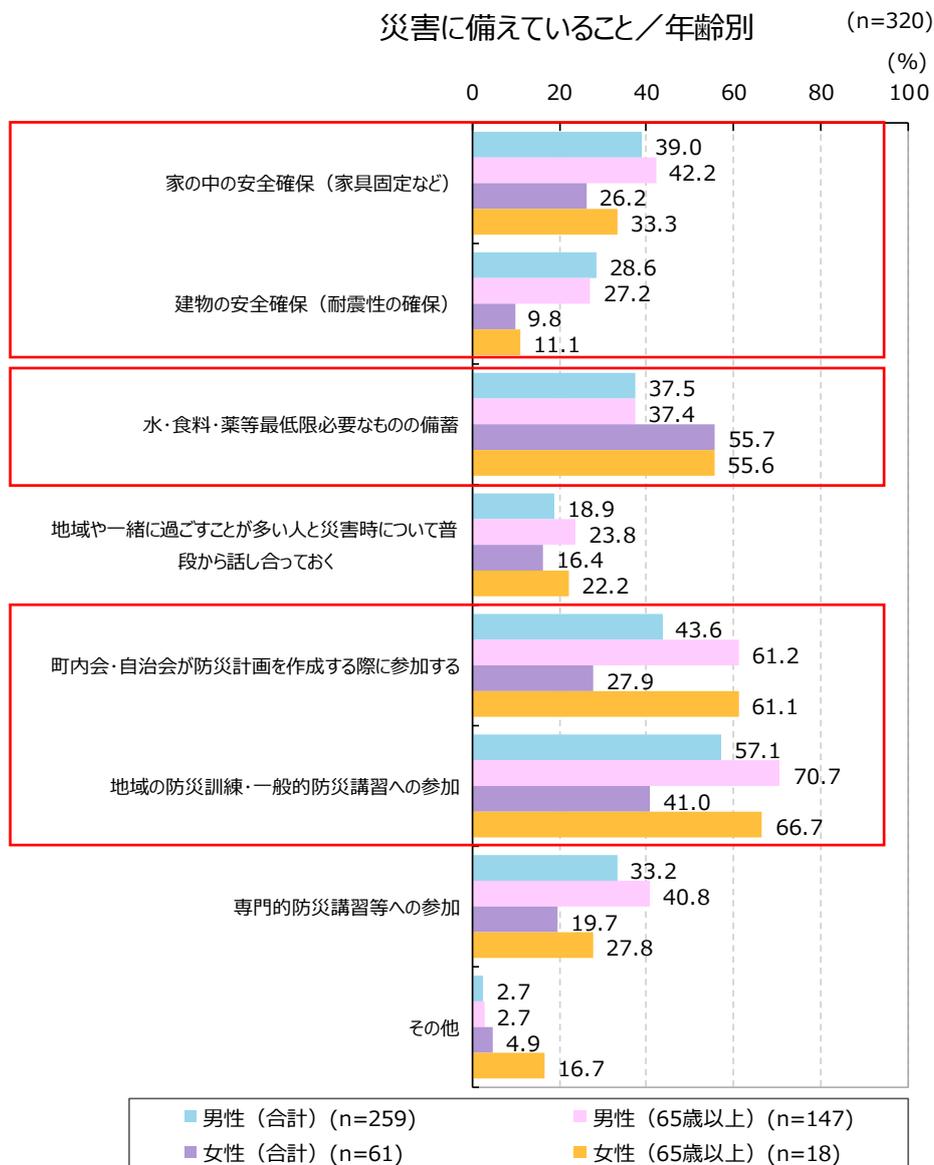


図 2-54 災害に備えて行っていること (男女別/年齢別) (富山市)

出所) 三菱総合研究所、平成 29 年度調査